



経済学部

■ 経済学科

国際専攻

経済専攻

取得学位	学士(経済学)
アドミッション・ポリシー	<p>経済学部は、経済学を基軸に社会科学を総合的に学ぶことで、多様性理解力とグローバルな視野を有し、経済センスに裏打ちされた論理的思考力をもって経済社会の諸課題に取り組み、その解決に貢献できる人材を育成することを目的としています。こうした人材育成目的に向けて設定された教育目標とカリキュラムで学ぶため、入学時点において以下の学力、意欲、興味を有することを求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経済・社会の問題を分析するために必要な基礎学力 2 経済・社会の問題に対する関心と問題解決に主体的に取り組む意欲 3 他者と協力しながら、ものごとに取り組む意欲 4 論理的なものの見方・考え方に対する興味



STUDENT'S VOICE

公認会計士の資格取得に関する学びを通して経済ニュースを読み解く視点が身についた。

立命館大学を志望した理由は、設備や教育プログラムが充実しており、学生生活や就職活動を支援する体制が整っているなど、学生が目標に向かって挑戦できる環境が整っていると感じたからです。とりわけ経済学部なら、ファイナンスに関する専門性の高い知識が得られ、実生活でも役立つ研究分野に取り組むことができると考えました。

現在は、公認会計士を目指し、企業経営における効率的な資金調達、管理・運用の仕組みや手法を学ぶ「コーポレートファイナンス」、会社組織内部の関係や、会社と株主といったステークホルダーとの関係を律する「会社法」など、公認会計士試験と関わりの深い科目を中心に履修しています。「コーポレートファイナンス」では、基礎的な計算や概念を簡潔に習得しました。より発展した問題を取り組む際には学んだ知識が下支えをしてくれていると感じます。また投資信託会社の社長のお話を聞く機会があり、金融に関する専門知識を深めることができました。「会社法」に関しては、ゼミナールでも学びを深め、「代表取締役解職の取締役会決議と特別利害関係」をテーマに研究・発表を行いました。卒業論文ではさらに研究を進めていくつもりです。

学びを進めるうちに、日常生活で目にする経済関連のニュースをこれまでとは違った視点で見ることができるようになりましたと感じます。また、資格試験の勉強の中で長時間タスクに向き合う忍耐力や長期スパンで物事を考え試行錯誤する姿勢が身についてきたと実感しています。直近の目標は、公認会計士試験に合格することです。将来は、経済学部で学んだ専門的知識を武器に、企業監査やコンサルティングなど多方面で経験を積みたいと考えています。いつか経済学科国際専攻ならではの強みを活かし、日本だけでなく世界を舞台に活躍できるようになりたいです。



前田 彩那さん
経済学部 経済学科 国際専攻 4回生
香川県立丸亀高校出身

「多様性理解力」と「経済的センス」を磨き、国際社会で活躍できる力を培う

世の中には経済学や現実経済に関する多くの書物が出回っています。標準的なテキストから、行動経済学など現在進行中の研究を紹介した啓蒙書、米中貿易戦争など現実の経済活動についての解説書までさまざまあります。つまり、単に経済学や現実経済についての知識を得るだけなら、これらの書物を読めば済み、わざわざ大学に行く必要はありません。では、経済学を大学で学ぶ意義はどこにあるのでしょうか？ 一つ目は、先生や友達など他者の対話を通して、身近な問題に対しても議論を深めることで、さまざまな局面で妥当な判断を下す能力が身に付きます。二つ目は、論文やレポート作成を通して、ある社会問題を分析する際、集めたデータをどのように処理し、どの理論を適用し、どのように考察したらよいか、とう一連のノウハウが身に付きます。三つ目は、異なる考え方にも多く触れることで、さまざまな活動で気付いた疑問から「問い合わせ立てる能力」を培うことができます。

上記の能力を養うために、経済学部では次のメニューを用意しています。(1) 4年間の小集団教育(基礎演習、実践経済演習、演習、卒業研究)を通して、他者との学び合いを促進します。その集大成として独自のテーマによるゼミナール大会発表や卒業論文作成を行います。(2) 自らの興味関心に合わせて受講できるユニット制を通して、皆さんが自発的に学修に打ち込む環境を提供しています。(3) 異文化に触れ、複眼的な視野を培う留学プログラムを提供しています。これに外国語で開講される科目を加えた履修プログラム(G-ALPs)も用意しています。(4) キャリアを意識した財務・会計プログラムを提供しています。(5) 学業で培った力を就職活動に生かすためのキャリア支援(メントレ)を多くの卒業生の協力を得て行っています。

経済学部での学びを通して、皆さんも一生涯の友や恩師と出会い、共に学び、充実した学生生活を送られることを願っています。

専攻紹介

国際専攻

「外国語+経済学教育+海外経験」で、世界で通用する国際人を育成する。

グローバル化の進む経済・社会に対する洞察力・分析力を養うため、独自の外国語プログラムを展開し、海外留学や海外フィールドワークの機会を提供します。特に外国語教育では、英語と中国語のインテンシブコースを設置し、入学直後から現地で「使える」外国語を集中的に学ぶことができます。※留学プログラムや海外フィールドワークは内容が変更となる場合があります。

経済専攻

「理論+現実+実践」で、現代社会の諸問題を解決する人材を育成する。

社会生活の基盤となっている経済活動のメカニズムや市場の法則を解き明かし、より豊かな社会を創造していくために必要な考え方や手法の基礎を学びます。経済学を中心に法律や経営など他の社会科学や教養までを含めて段階的かつ総合的に学ぶことができます。

[2025年度 教員・研究テーマ一覧]

	篠田 剛	財政、公共経済
青木 芳将	経済政策	
青野 幸平	ファイナンス、時系列分析、マクロ経済学、金融政策	
安達 有祐	都市経済学、地域経済学、応用計量経済学	
池脇 信一郎	租税法、税務会計	
市野 泰和	国際貿易理論、応用マクロ経済学	
福澤 泉	政策過程分析論(環境・エネルギー分野)、環境政策学、国際金融論	
VIXATHEP Souksavanh	経済発展論、東南アジア経済論、ミクロ経済学	
江原 慶	社会経済学	
大川 隆夫	応用マクロ経済学	
大塙 量平	西洋経済史、近代ドイツ語圏社会経済史、文化・芸術の経済史	
大野 敦	国際政治経済学、開発学、国際経済学	
大橋 陽	アメリカ経済史、アメリカ経済論、政治経済学	
小田巻 友子	社会政策	
柿中 真	国際経済学、公共政策、金融システム	
金丸 裕一	近現代中国史、東アジア経済史、アジアの神学	
川岸 岳人	マクロ経済学、勤学マクロ理論	
河音 琢郎	財政学、予算論、租税論	
紀國 洋	産業組織論	
木原 彩夏	会社法、商法	
栗原 由紀子	家政、生活学一般、地域研究、経済統計	
黒川 清登	開発経済学、地域経済学、防災経済学	
栗田 但馬	地方行政論、地域経済論	
後関 洋一	マクロ経済学、マクロ動学の理論、経済成長論	
後藤 大策	行動開発経済学、行動環境経済学、応用マクロ計量経済学	
小林 美月	多国籍企業、国際経営、自動車産業、ソフトウェア開発アウトソーシング	
言美 伊知朗	マクロ経済学、国際金融論	
笹尾 俊明	環境経済学、廃棄物の経済学、循環経済	
佐藤 隆	社会経済学、経済理論	
佐野 聖香	農業経済学、開発経済学	
LEE Kangkook	経済発展論、国際金融論、東アジア経済	

詳しくはこちら▶



ゼミナール大会

〈研究成果発表を通して、社会で通用する力を鍛える〉

学生同士の知識の深め合いや研究意識の向上、また学部全体での研究力の向上を目的に、例年12月に開催される学術イベントです。毎年100チーム以上、300名を超える学生が参加します。日ごろの調査・研究の成果を論文としてまとめてプレゼンテーションを展開します。コンテスト形式で評価され、会場は熱気にあふれた雰囲気に包まれます。自らが設定したテーマについて徹底的に研究し、経済の専門家である教員や多くの学部生の前で成果を報告することにより、社会で役立つ課題発見・分析・解決の能力、プレゼンテーション能力を養います。



4年間の学び



上記は2025年度のカリキュラムです。2026年度は科目名称等が変更になる場合があります。

学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。→ 教養科目 P.130

ユニット制（多様な経済学分野を体系的に学び、深い専門的知識を身に付ける）

経済学が持つ多様な分野を分かりやすくするために、一定の関連性と系統性を持つ科目をパッケージ化しました。学生はゼミナール教員による履修指導のもと、ゼミナールの学修内容と深く関係するユニット科目を履修することで体系的に学ぶことができます。複数のユニットを並行して履修することも可能です。

グローバル経済(18科目)	経済政策(10科目)	労働・社会保障(9科目)	ファイナンス分析(12科目)
Applied Economics Development Planning and Public Policy Eurasian Economy EU経済論 Japanese Economy アジア経済論 アメリカ経済論 エリヤスティディ 特殊講義 オープンマクロ経済学 LEE Kangkook	開発経済学 開発計画プロジェクト・マネジメント 国際金融論 国際法 国際貿易論 多国籍企業論 中国経済論 比較経済論 オーブンマクロ経済学	貨幣・信用論 環境経済学 経済成長論 経済変動論 公共経済学 行政法 商法 地域経済学 地方財政論	医療経済論 企業と雇用システム 行政法 社会政策 生活経済論 地域福祉論 福祉経済論 労働経済論 労働法
			会社法 企業税務論 行政法 経済法 国際課税 財務諸表論 産業組織論
			保険経済論 リスク管理論 行政法 行動経済学 コーポレートファイナンス 財務諸表論 商法 ファイナンシャルエコノミクス
			歴史・思想研究(4科目) 社会思想史 西洋経済史II 東洋経済史I 東洋経済史II
ビジネス戦略(12科目)	環境政策評価(9科目)	地域マネジメント(8科目)	
会社法 企業税務論 行政法 経済法 国際課税 財務諸表論 産業組織論	商法 税法 組織と制度の経済学 マーケティング論 行動経済学	環境経済学 環境科学 環境経営論 環境評価論 行動経済学	観光経済論 農業経済論 行政法 地域経済学 地域福祉論 地方財政論 都市・地域マネジメント 農業経済論
			文化経済学

科目についての詳細は オンラインシラバス 立命館 検索

外国語の選択
 (国際専攻) 英語インテンシブコース:[必修]英語 / 中国語インテンシブコース:[必修]中国語、英語
 (経済専攻) 英語コース:[必修]英語 / 2言語コース:[必修]英語 [選択必修]中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、朝鮮語から1言語



学び・プログラム

G-ALPs (Global and Active Learning Programs)

経済学部では、外国語運用能力の向上と経済的なセンスを磨くことに重点を置いています。外国語教育や経済学教育に加えて、海外留学やフィールドワークを通じて、国際化した経済・社会に対する洞察力を磨く体系的な国際教育プログラムを用意しています。具体的には、All English(中国語)科目などを含む科目群やグローバル経済ユニットからの受講や、海外留学プログラムへの参加、また異文化交流の機会や留学経験者の体験談を聴講する機会(G-ALPs企画)などがあります。国際専攻以外の方も受講登録可能となっており、経済学部全体での国際教育のレベルアップを目指します。



■ 経済学部生のための独自留学プログラム

海外アカデミックプログラム

海外で外国語を学び、
外国語で経済学を学ぶ。

海外の大学などで外国語を集中的に学ぶとともに、現地経済事情を外国語で学ぶことができます。プログラムへの参加を通じて国際分野で通用するコミュニケーション能力や専門性を身に付けます。

[2025年度派遣先(予定)]

派遣先国	派遣先機関
オーストラリア	ホーソン・メルボルン英語学校
ニュージーランド	マッセイ大学
アメリカ	ポートランド州立大学
中国	大連外国语大学
中国	東北財經大学

*年度によって実施プログラム・派遣先が変更となる可能性があります。

海外フィールドワークプログラム

フィールドワークを通じて、
開発や環境の実態に触れる。

経済学部で学んだ知識を活用し、海外で調査・研究・発表に取り組みます。現地の人々と触れ合いながら、プログラムごとに設定されるテーマ(地域格差は正やツーリズム、環境と開発など)に関するフィールドワークに取り組みます。

[2025年度派遣先(予定)]

派遣先国	派遣先機関
英国	JETRO(日本貿易振興機構)、JBIC(国際協力銀行)ほか
中国	上海对外经贸大学ほか
ラオス	ラオス国立大学ほか

海外インターンシッププログラム

海外ビジネスの現場から、
現代社会の経済を学ぶ。

日本企業・団体の海外オフィスや現地企業で実施するインターンシップです。多様な背景を持つ社員との就業体験や交流、世界の最前線のビジネス経験により、海外で働くことについて体験的に考えることができます。

[2025年度派遣先(予定)]

派遣先国	派遣先機関
アラブ首長国連邦	日系・現地石油開発会社

専門キャリアプログラム

高度な専門性を求められる分野に関して、専門的キャリアの意識付けを行うために、財務・会計プログラムを設置しています。学びの集団を形成し、難関試験に挑む学生を支援します。

財務・会計プログラム

税理士や公認会計士、国税専門官、企業の財務担当職など高度な専門職を目指す人材を養成するプログラムです。簿記2級の資格取得を目指す科目などを用意しており、会計系難関資格取得へのステップアップも可能です。

■ 卒業生による経済学部就職活動応援企画「メントレ」を実施

社会の第一線で活躍する卒業生の協力を得て、学生の就職活動を組織的に支援。

年間を通じて「自己の価値を社会の中でどう生かすか」について考える経済学部独自のキャリア企画です。特に2日間にわたり全国から多くの卒業生を招く回では、自己分析の深堀り、エントリーシートの添削、面接の指導など、就職活動に必要な準備を行います。先輩だからこそできる熱血指導に学び、参加者は就職活動において抜群の成果を上げています。



卒業生からのメッセージ

共創を軸にした未来社会を目指して スポーツで地域振興を図りたい。

「共創を軸にした未来社会の創造」を志し、その実現のための基盤が西日本電信電話株式会社にあると思い入社を決めました。現在は、関西エリアの中堅・中小企業のDX推進に取り組む一方、社内ダブルワーク制度を活用して、自治体の共創ビジネスを推進する仕事にも携わっています。大学では、国際交流イベントを企画運営する団体のリーダーとして活動していました。学生センターとの交渉で助成金を受け、大学内の枠を越えた大きな国際交流の機会を提供しました。この経験は、仕事で主体的に周りを巻き込む力として、また、セミナーでの論文執筆を通して身につけた「問い合わせる力」「洞察力」「批判的思考力」は、課題解決のスキルとして活かされています。スポーツを起点に地域の振興を図るのが将来の目標です。スポーツが与えてくれる感動を一過性のものとせず、持続的な地域振興につなげたいと考えています。



永吉由芽さん
西日本電信電話株式会社(NTT西日本ビジネスフロント株式会社 関西営業推進担当 DXコンサルタントに出向)
(経済学部 2022年卒業)

ITソリューションを提供し 安心・安全な社会づくりに貢献する。

現在は営業担当として、国土交通省様向けにサーバやネットワーク、映像機器のほか、ICTやAIを用いたソリューションを提供し、安心・安全な暮らし、災害に強いレジリエンスな社会づくりに貢献しています。大学時代思い出深いのは、アクティブラーニング主体の授業です。実践的な学びを通じて、何事にも積極的に取り組む姿勢が身につきました。また卒業論文では、「音楽聴取が長時間作業に及ぼす心理的影響」について研究しました。3人のチームで時には夜遅くまで議論し、試行錯誤しながら困難を乗り越え、卒業論文を書きあげるという貴重な経験を積むことができました。こうした経験から、自分の頭で考え、行動する大切さを学んだことは、仕事をする上でも良い教訓となっています。将来の目標は、お客様に提案やコンサルティングを行う、ソリューション営業ができる担当になることです。



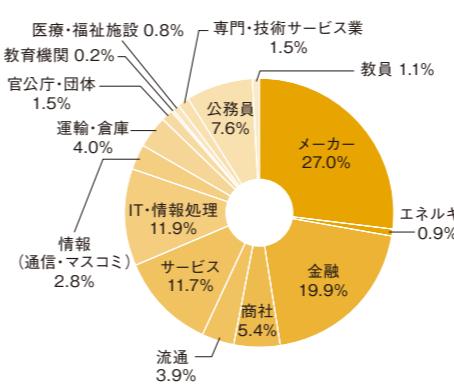
北村直也さん
富士通株式会社 ソーシャルシステム事業本部
社会ネットワークソリューション事業部
(経済学部 2023年卒業)

2019年、経済学部入学。行動経済学関連のゼミナールに所属し、音楽聴取の心理的影響について研究。ゼミナール大会で入賞する。またダンスサークル「R.D.C.」に所属し、京都大会3位、関西大会出場を果たす。ITでより便利で暮らしやすい世の中にしたいと思い、2023年、富士通株式会社に入社。仙台を拠点に営業活動に従事する。

進路・就職状況

経済学で培ったセンスと分析力を生かして、多様なフィールドで活躍。
多くの卒業生が、世界と日本の経済の仕組みに精通する人材として、幅広い分野で活躍しています。

2023年度卒業生 業種別進路決定状況



2023年度卒業生 進路・就職先一例

有限責任あざさ監査法人	トヨタ自動車(株)	(50音順)
川崎重工業(株)	トランシスコスマス(株)	
関西電力(株)	NTT西日本(西日本電信電話(株))	
(株)キーエンス	西日本旅客鉄道(株)	
(株)京都銀行	(株)日本政策金融公庫	
独立行政法人国立病院機構近畿グループ	日本年金機構	
(株)JTB	(株)ニトリ	
(株)滋賀銀行	日本生命保険相互会社	
シャープマーケティングジャパン(株)	野村證券(株)	
大和証券グループ	パナソニックホールディングス(株)	
有限責任監査法人トーマツ	(株)ファーストリテイリング	
富士通(株)	富士通(株)	
三井住友信託銀行(株)	日本生命保険相互会社	
三菱重工業(株)	野村證券(株)	
(株)村田製作所	パナソニックホールディングス(株)	
リコージャパン(株)	(株)ファーストリテイリング	
ローム(株)	富士通(株)	
国家公務員一般職(独立行政法人造幣局)	日本生命保険相互会社	
国税専門官	野村證券(株)	
地方公務員(上級職)	パナソニックホールディングス(株)	
教員	(株)ファーストリテイリング	

○円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。○端数処理の関係で100%にならない場合があります。



スポーツ健康科学部

■ スポーツ健康科学科

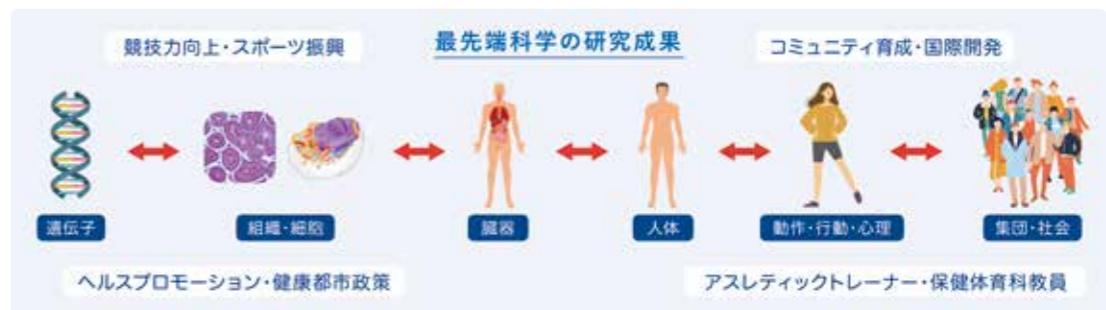


取得学位	学士(スポーツ健康科学)
アドミッション・ポリシー	<p>スポーツ健康科学部では、以下のような素養を有した学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 論理的に考える基礎的素養を身につけ、スポーツ健康科学分野を学ぶために必要な学力を有する学生 多様な価値観を持った人々及び異分野の人々と融合した学びに、意欲的に取り組むことができる学生 社会課題の解決及び社会貢献のために、スポーツ健康科学分野の学びに主体的に挑戦する意志を持つ学生 自身の持ち味を理解し、自身の持っている人間的魅力を発揮する意欲を持つ学生

「ヒト・ひと・人」を科学し、健康と幸福、世界平和に貢献する

スポーツ健康科学部では「ひと」が健康的で豊かに暮らすことを実現するため、生物学的な「ヒト」の最小単位である細胞や遺伝子から、臓器、人体、さらに「人」の集合体である集団まで、社会の幅広い課題について、多様な学問分野を連携させ、科学的に解決策を導き出しています。例えば、世界規模の課題である肥満、生活習慣病といった健康の諸問題に対し、運動・身体活動効果のメカニズムを学んだ上で、地域の方々を対象にした運動教室を開催して健康を保つためのプランを提案するなど、実践的な研究を通して社会貢献を行っています。また、地域単位での運動やスポーツ習慣の定着・継続といった喫緊の課題に対する取り組みとして、教育学やマネジメント分野の知見を生かし、さまざまな組織・チームを専門的な観点から教育、マネジメントするといった実務的な視点からの学びを実践しています。さらに、スポーツ競技力の向上のために不可欠な、最先端の科学的手法の確立やサポートについての学びなど、「スポーツ」や「健康」を総合的に学修することができます。

これらの学びにより、人々の健康、幸福な社会、平和な世界を創造することを目指し、その実現のために“CREA”というビジョンを掲げ、これを実現できる学生を育成したいと考えています。“CREA”とは、「産む、創造する、引き起こす」などの意味を持ったラテン語“creare (クレアーレ)”を語源に持つ現代イタリア語で「創造」を意味し、それぞれの頭文字には、「Collaboration (異分野を紡ぐ)」「Resiliency (主体的に挑む)」「Edge (智を極む)」「Attraction (ひとと組織が輝く)」という想いが込められています。



STUDENT'S VOICE /

スポーツと教育を通して“ふくしま”の街づくりに貢献したい。

現在、スポーツ教育学領域・教育学系のゼミナールに所属し、幅広くスポーツ教育に関する学びを深めています。教員免許の取得を目指しており、指導についての知識を深める授業に加え、スポーツ心理学やスポーツ栄養学など、子どもたちの指導に活かせる知識も幅広く学んでいます。さらに健康運動指導士の資格取得のため、運動のメカニズムや運動处方などの、健康運動科学の領域も学んでいます。学習分野は多岐にわたりますが、これらすべてが「スポーツを通して人々の健康や笑顔に貢献する」ことを目的とした学びなのだと意識して取り組んでいます。加えて、地域の子どもたちへ運動教室を行う学生団体で活動もしています。指導や教育について実践的な学びを積み、人として大きく成長することができました。卒業研究のテーマは、「幼少期の屋外活動と自然体験が“生きる力”に与える影響」。自分が福島県で被災し、原発事故による放射能の影響から屋外活動を制限された経験があり、災害大国の日本で子どもたちが生きる力を育み、成長していくために、スポーツや運動という視点でどのような教育が必要なのか、支援はどうあるべきなのかを研究し、次世代の子どもたち向けの教育プログラム形成へと活かしていかたいと考えています。

私は、「スポーツと教育を通して街づくりを推進し、“ふくしま”に笑顔を届け、未来を創っていく」を自分のミッションとして掲げています。自然体験教育、スポーツ教育、キャリア教育を軸に、福島で事業展開をするのが将来の夢です。そのためにも、自然体験教育やスポーツ教育、キャリア教育に関するプログラムにどんどん参加し、たくさんの経験を積んでいきたいと思っています。



橋本 美歩さん
スポーツ健康科学部 スポーツ健康科学科 4回生
福島県立福島高校出身

4年間の学び

多様な学問分野を連携させ、科学的に解決策を導く

系統的なカリキュラムで低回生時には基礎的学力を鍛えるだけでなく、1回生秋学期より専門的な科目を学び始め、高回生時には多様な関心や目指す進路に応じて学びを深めます。4つの領域（スポーツサイエンス領域・健康運動科学領域・スポーツ教育学領域・スポーツマネジメント領域）からなる専門科目を、所属に縛られることなく横断的に学び、その学際的な学びを応用し「分野を超えた挑戦」を実践します。

回生		1回生		2回生		3回生		4回生									
セメスター		春学期		秋学期		春学期		秋学期									
学びの流れ																	
将来へ向けて視野を広げ、経験する 大学へ入學し、設定した目標や夢を実現するために基礎力を養う時期です。高校での学修を基礎とし、新しい学びに触れることができます。																	
基礎科目	外国語科目	英語P1 英語S1	英語P2 英語S2	英語P3 英語S3	英語P4 英語S4												
スポーツ健康科学部	基礎科目	講義 ヒト・ひと・人の倫理と哲学 身体の構造と働き ヘルスプロモーション (衛生学および公衆衛生学を含む)	スポーツ健康科学とデータサイエンス スポーツ健康科学と未来														
	演習	基礎演習I	基礎演習II														
	領域科目	スポーツサイエンス領域 健康運動科学領域	バイオメカニクス論 運動・栄養・生理学 (基礎健康科学)	スポーツ生理・生化学 運動・栄養・生理学 (応用健康科学)	トレーニング科学 パフォーマンス測定評価方法論 スポーツ情報科学												
専門科目	スポーツ教育学領域	スポーツ教育概論 インクルーシブ体育・コーチング論	スポーツコーチング スポーツ心理学	スポーツ教育学 スポーツ心理学	スポーツ教育 実践学												
	スポーツマネジメント領域	組織心理学 ビジネス戦略論 マーケティング論 リサーチメソッド	マーケティング論 リサーチメソッド	ソーシャルイノベーション論													
	演習			専門演習I	専門演習II	専門演習III	専門演習IV 卒業論文										
	融合科目	講義・演習	PBL I	PBL II													
	プロフェッショナル・キャリア形成科目	簿記入門	スポーツ健康科学 セミナー インターンシップ(国内) サービスラーニング クリニカルAT インターンシップ(国内) クリニカルAT インターンシップ(海外)	エクササイズ プログラミング 実習I エクササイズ プログラミング実習II スポーツ指導実習A(球技・ゴルフ型) スポーツ指導実習A(武道) スポーツ指導実習B(器械運動) スポーツ指導実習B(陸上競技) スポーツ指導実習B(水泳) スポーツ指導実習B(ダンス) インクルーシブ体育・スポーツ実習 インターンシップ(健康運動指導士)	学校保健学 エクササイズ プログラミング 実習I エクササイズ プログラミング実習II スポーツ指導実習A(球技・ゴルフ型) スポーツ指導実習A(武道) スポーツ指導実習B(器械運動) スポーツ指導実習B(陸上競技) スポーツ指導実習B(水泳) スポーツ指導実習B(ダンス) インクルーシブ体育・スポーツ実習 インターンシップ(健康運動指導士)												

*上記は2025年度のカリキュラムです。2026年度は科目名称等が変更になる可能性があります。

*学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。 ➡ 教科科目 P.130

科目についての詳細は オンラインシラバス 立命館 検索

外国語の選択

[必修] 英語

スポーツ健康科学分野において国際レベルの研究活動の主要言語である英語を専修とし、英語運用能力とコミュニケーション能力の向上を目指します。

4つの領域を融合したスポーツ・健康科学を学ぶ

理学・工学・保健衛生学・医学・体育学・教育学・経済学・経営学・栄養学など総合的・学際的な領域である、スポーツ・健康科学分野を幅広く学びます。



学び・プログラム

国際的に活躍できる米国のアスレティックトレーナーの資格取得を目指す (グローバル・アスレティックトレーニング (GAT) プログラム)

GATプログラムは、BOC-ATC (the BOC credential of "Athletic Trainer Certified") : 米国公認アスレティックトレーナー) という資格取得を積極的に支援する、本学部独自の画期的な留学プログラムです。米国公認アスレティックトレーナーは、プロスポーツ選手から一般の人々の、活動(運動)中に起きた外傷の救急措置、傷害や疾病的予防・認知・評価、そしてリハビリテーションなどに関わる専門職であり、理学療法士や看護師などと同じ準医療従事者です。BOC-ATCの資格を得るために、CAATE^{※1}公認のカリキュラムを持つ大学院を修了し、BOC^{※2}による資格認定試験に合格する必要があります。

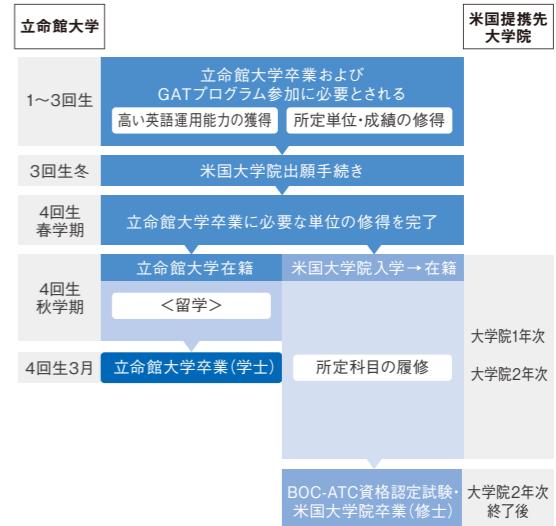
本プログラムは、CAATE公認のカリキュラムを備えた大学院を持つ米国の大学院^{※3}と提携し、4回生の春学期終了時までに立命館大学の卒業に必要な単位の修得を終え、夏ごろから同大学院へ留学し、立命館大学の学士号と同大学院の修士号の双方を取得することで、BOC-ATCの受験資格を得られるよう設計されています^{※4}。また、GATプログラム参加を目指す皆さんを支援する「GAT Step-Up コース」を用意し、立命館大学在学中から、専門性、高い英語運用能力およびグローバルな視野を獲得し、国際的に活躍できるアスレティックトレーナーの育成を目指しています。

※1 CAATE : The Commission on Accreditation of Athletic Training Education

※2 BOC : Board of Certification, Inc.

※3 2025年1月現在の提携先: East Stroudsburg University of Pennsylvania (ESU) · Spalding University (SU) · The University of North Carolina at Greensboro (UNCG)

※4 所定の基準を満たした場合にのみ申請可能な早期卒業制度を利用した場合は、フローが異なります。



※上記は一例であり、大枠を記載した略図です。
実際の詳細なスケジュールは立命館大学および米国提携先大学院の学年暦に準じます。

※本学入学後、最終的に2つの学位を取得するには、少なくとも5年数ヶ月を要することとなります。

GAT プログラム 詳細はこちら ▶



自分のテーマで主体的に学ぶ

PBL 科目

PBL (Project/Problem Based Learning) は、スポーツ健康科学部で学んだ知識とスキルを実践の現場で活用する授業です。2回生の1年間を通じ、自分のテーマを持ってプロジェクトをつくり上げていきます。実際のスポーツ競技のパフォーマンス分析や健康指導に関するアセスメント、運動実施に伴う生理応答や運動と認知機能の関係、子どもたちにスポーツを教えるプロジェクトやチーム・マネジメントを実践するプロジェクトなど、各自の関心のあるテーマを突き詰め、社会的・学術的に意義のあるプロジェクトを生み出すことを目標としています。さらに、このプロジェクトの経験を3・4回生の専門演習(セミナー)・卒業研究に結実させていくことができます。

キャリア形成と学びの融合

プロフェッショナル・キャリア形成科目

スポーツ健康科学分野におけるより高度な専門性を身に付け、習得した知識とスキルを実践で生かします。また、スポーツ健康科学分野に関連する資格取得や実践に不可欠な知識とスキルを身に付け、自らのキャリアを切り拓くために必要な知覚と感性を磨きます。

国内・海外でのインターンシップ

現場での就業体験を通して、学んだ理論をどのように活用できるのかを実感できるインターンシップを国内外にて実施。「クリニックATインターンシップ(海外)」では、米国公認アスレティックトレーナーのもと、英語で専門的な研修を積み、コミュニケーション能力や実践力を高めます。



スポーツ指導実習

教職を目指す学生が体育授業やスポーツにおける指導方法を学び実践します。指導者の視点に立ち、対象者の動きを「観察→分析→解釈→指導(表現)」する学びをします。



施設・教員紹介

最先端の教育・研究を実現する

スポーツ健康科学部の実験・研究施設は、「インテグレーションコア」という建物に集中しており、最先端の機器や設備を導入した、可能性に満ちた教育環境です。多様な実習科目や研究活動で利用します。

■スポーツパフォーマンス測定室

ハイスピードカメラやモーションキャプチャなどで運動動作の計測・解析を行います。



■MRシステム

体内の状態や脳内の働きを調べ、高度な研究に活用します。



■スポーツ健康指導実験室

筋パワーや持久力を測定する装置や、人間の体型を3次元で解析する装置などがあります。



■栄養調理実習室

競技力向上につながるメニューを実際に調理でき、「食育」の実践にも活用します。



■低酸素実験室

低酸素下でのトレーニングが身体に与える影響を解析します。



■エネルギー代謝測定室

1日のエネルギー消費量を正確に測定することができます。



■トレーニング指導実習室

機器を使ったトレーニング指導技術を習得することができます。



■超音波診断装置

運動前後の血管の健康状態や筋肉・脂肪の厚さなどを測定します。



■BKC スポーツ健康コモンズ

日本水泳連盟公認の室内温水プールや流水プールがあり、学んだ「理論」を実地確認できます。



[2025年度 教員・研究テーマ一覧]

スポーツサイエンス	
家光 素行	運動および栄養摂取が競技力や健康に及ぼす効果と機序解明に関する研究
伊坂 忠夫	スポーツ競技力ならびに日常生活活動を高めるためのバイオメカニクス
後藤 一成	競技力向上および健康増進のためのトレーニングやコンディショニングに関する研究
塩澤 成弘	スポーツ・健康・医療分野の生体計測センサ／デバイスに関する研究
長野 明紀	人体の運動制御のメカニズムに関する研究、運動機能向上のための工学的支援
藤田 聰	効率的な骨格筋肥大を目的とした運動と栄養摂取に関する研究
健康運動科学	
真田 樹義	生活習慣病および介護予防のための運動処方研究、異分野の連携がもたらす価値創造
篠原 靖司	機能解剖学的アプローチによるスポーツ傷害に関する研究
清家 理	1. 認知症の人と家族に対する非薬物介入と効果検証（認知症や抑うつ進行予防） 2. Community design for Diversity & Inclusion and Well-being
橋本 健志	競技力向上や健康増進のための有効な運動・栄養処方の開発に関する研究
眞下 苑子	スポーツ傷害の予防とパフォーマンス向上
村上 晴香	運動行動誘発を通じた健康づくりに関する研究

スポーツ教育学	
上田 審嗣	子どもの身体と運動の発育発達と体育・スポーツ指導に関する研究
海老 久美子	栄養的支援と食教育の効果についての研究
大友 智	スポーツ指導場面・体育学習場面における教授・学習に関する研究
河井 亨	「大学生の学びと成長」に関する理論的・実証的・実践的研究
笹塙 育子	競技力向上を目的としたメンタルトレーニングの効果およびスポーツにおける対人援助に関する研究
永浜 明子	「ひと」についての問い合わせ、インクルーシブおよびアダプティッド体育・スポーツのあり方、運動が苦手な児童・生徒の体育づくり
山平 芳美	諸外国におけるスポーツおよび体育科教育に関する研究
スポーツマネジメント	
安邦	スポーツ消費者経験のビジネスおよび社会的アクトゥムに関する研究
長積 仁	スポーツとまちづくり、組織に対する支援の波及性
平井 祐理	企業におけるデータ利活用に関する研究、オープンイノベーションに関する研究
山浦 一保	信頼ベースのリーダーシップとチーム力向上に関する心理学的研究
眞下 苑子	英語科目担当教員
祐伯 敏史	言語理解や習得のプロセスについて研究・解明する

詳しくは[こちら](#)▶



卒業生からのメッセージ

一つの目標を能動的にやりきる精神で新たな治療の選択肢を届けたい。

現在、医薬品のMRとして働き、医療機関の医師に医薬品の情報提供を行っています。やりがいは、患者様に新たな治療の選択肢を提供できることです。例えば、治療法が確立していない疾患で苦しんでいた患者様に新薬を提供した結果、自立歩行や発語が難しかった状態から、手が挙がるようになったと伺い、大きな喜びを感じました。スポーツ健康科学部で学んだ「目標に向かって能動的に一貫してやりきる姿勢」は、患者様のために何ができるかを考え、薬を届ける努力につながっています。大学では、スポーツ医学のセミナーで学ぶ一方、スポーツ教育学のカリキュラムにも取り組み、中学・高等学校の教員免許を取得しました。このように多角的な視点を養った経験が、現在の仕事での強みとなっています。将来は大学時代を通じて培ったリーダーシップを活かし、患者様のために尽力するMRを育てるこをを目指しています。



日本新薬株式会社 営業本部 関西支店 大阪東営業所 河内チーム
(スポーツ健康科学部 2019年卒業)

大学での学び、団体活動での経験を活かし、県民の主体的な健康づくりを推進する。

健康づくりを通じて地元の発展に貢献したいという思いから、愛知県庁を志望しました。大学では、応用健康科学・運動処方研究のセミナーで学ぶことと並行して、健康づくりを普及する団体「ヘルスボ+R」に参加し、地域のイベントで、体力測定や自宅でできる運動の指導などに取り組みました。こうした活動は、授業での学びをアウトプットする絶好の機会となっただけなく、一般の方にもわかりやすい指導方法や声かけの仕方などを体得する機会となりました。就職後は、健康対策課で「あいち健康マileyage事業」や「受動喫煙防止対策」を担当しました。大学で学んだスポーツや健康、運動に関する知識、「ヘルスボ+R」での活動経験を活かし、アプリで健康コラムを作成・配信したり、イベントでロコモ度テストを実施するなど、県民の主体的な健康づくりの推進に貢献することができました。

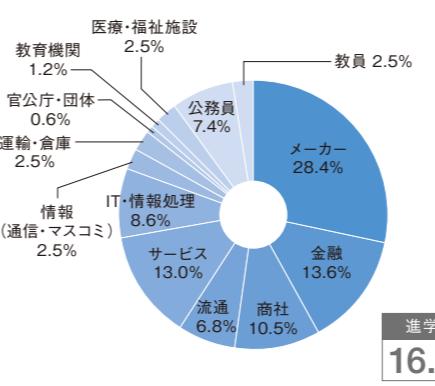


2015年、スポーツ健康科学部に入学。2016年に新入生を支援するアカデミックアドバイザーとして活動。2017年、健康づくり普及団体「ヘルスボ+R」に加入。2019年3月に卒業、4月、愛知県庁に入庁し、保健医療局健康医療部健康対策課健康づくりグループに配属される。2023年4月、愛知県立岡崎工科高等学校庶務部に赴任。

進路・就職状況

確かな専門知識とグローバルな視野を備えた人材には、多様な進路が広がっている。

2023年度卒業生 業種別進路決定状況



2023年度卒業生 進路・就職先一例

アクセンチュア(株)	第一生命保険(株)	(50音順)
アルフレッサ(株)	(株)日本アクセス	
(株)アルペン	日本電気(株)(NEC)	
ウェルシア薬局(株)	(株)ニトリ	
(株)NTTドコモ	日本生命保険相互会社	
キユーピー(株) 総合職	野村證券(株)	
京セラ(株)	久光製薬(株)	
グンゼ(株)	(株)ファーストリテイリング	
興和(株)	富士ソフト(株)	
(株)J-オイルミルズ	富士フイルムメディカル(株)	
(株)滋賀銀行	(株)ベイカレント・コンサルティング	
ジョンソン・エンド・ジョンソン	北海道旅客鉄道(株)	
日本法人グループ	丸大食品(株)	

○円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。○進学率=(進学者/(就職者+進学者))。ただし、進学者には大学院だけでなくその他の進学者を含む。○端数処理の関係で100%にならない場合があります。



食マネジメント学部

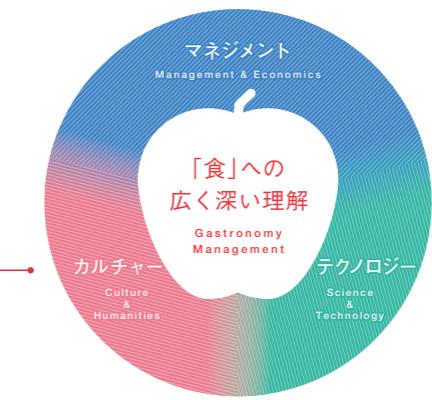
■ 食マネジメント学科



食を多面的に捉え、広く深く理解する。

人間社会に広く深く結びついている食。食マネジメント学部では、食を「マネジメント」、「カルチャー」、「テクノロジー」の3つの観点から多面的に捉えます。3つの観点全てを総合的に学ぶことで、食への広く深い理解を促します。

グローバル化する食の供給・消費のしくみや地域の役割、経営技法を学びます。社会に最適な政策や食に関わる組織のあり方を考えます。



文化的・地理的・歴史的な視点から食を学びます。食の多様性と奥深さを知り、食と人の織り成す文化を理解します。

人の認知の侧面と、栄養学や調理科学の側面から食にアプローチ。人が安全においしく食べるとはどういうことかを科学的に理解します。

例えば、コーヒーを提供するカフェを経営するには…

- うまい成分、香り、音や色彩がおいしさに繋がるメカニズムを理解し、幸福感・充実感に結び付くコーヒー作りや店の内装を考える。
 - 日本や世界各地のコーヒーの飲み方、歴史など、多様なコーヒー文化を理解し、このカフェでどのような文化や価値を創造するか考える。
 - 以上を踏まえて、出店場所、仕入れ、調度品、豆や機器、焙煎方法、容器、提供価格などを決定する。
- このようにコーヒーやカフェへの多面的な知識と理解により、顧客に愛されるカフェを「マネジメント」することが可能になります。



STUDENT'S VOICE /

幅広い視点から食を学び、実社会の現場で食の課題に挑戦。

食を通した健康に興味があり、食と健康をテーマとして実験が行える研究室があること、「マネジメント」「カルチャー」「テクノロジー」という学際的な視点から食を学べることから、食マネジメント学部に進学しました。

食についての視野を広げてくれる授業の一つが、「ガストロノミックスタディプロジェクト」です。教室で学ぶだけでなく、食に関する課題について、学生が主体となって実践的な取り組みを行うことができる科目です。実際に「薄口醤油」の認知度や使い方に関するイベントを企画したり、海外の方と連携して調査を実施したりしました。イベントやアンケートの企画・実施を通して、計画的に実行するマネジメント力の重要性を学ぶことができました。もう一つは、「総合講義」です。毎週異なるゲスト講師の方から、実社会や企業で起きている食に関する事柄について学ぶことができます。多種多様な経験をお持ちのゲスト講師の方が来られるため、幅広い視点から食について学ぶことができるのが魅力です。卒業研究では、「口から食品を食べる」という行動が、腸でのカルシウム吸収にどのように影響しているかを、マウスの腸の組織などを用いて調べています。この研究によって、口から食べ物を摂取することの重要性を科学的に実証できればと考えています。

課外活動では、うどんチェーン店との協働で新商品の開発を行うプロジェクトに参加しました。味の追求だけでなく、価格面や食材の調達方法など考慮すべきことがたくさんあることを学び、商品開発の奥深さを知ることができました。このプロジェクトを通して、自身のアイデアを形にすることの面白さを実感することができたので、将来はこの経験を活かせるような仕事をしたいと思っています。



青木 灯さん

食マネジメント学部 食マネジメント学科4回生
富山県立高岡高校出身

取得学位	学士(食マネジメント)
アドミッション・ポリシー	<p>食マネジメント学部の人材育成目的に共感し、食についての幅広い興味や関心を抱き、社会と関わる食についての諸分野を統合的に学び、現代社会において実践的な行動力を發揮できる者を募集します。具体的には次の通りになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食に関わる分野について強い興味や関心を抱き、食科学を主体的に学ぶ知的好奇心を有する者 2 食マネジメント学部に関わるマネジメント、カルチャー、テクノロジーの諸科目を理解するために必要となる基礎的な知識および技能を有する者 3 5教科(国語、外国語、数学、理科、社会)、さらにそれ以外の教科も含めて、社会や文化に関連する内容や自然現象に関連する内容に関心を持ち、幅広く基礎的な学習をしてきた者 4 文化多様性への理解を示し、修得した統合的な知性を、国内外において積極的に受発信し実践する意欲と、そのための思考力・判断力・表現力・コミュニケーション能力を持つ者

学部の特徴的な学び

「マネジメント」、「カルチャー」、「テクノロジー」の総合的な学びと実社会に通じたアクティブラーニングで、課題解決力・実践力を身につけます。

総合講義

食文化、ビジネス、地域経営、起業、ジャーナリズム、国際展開などをテーマに、食に関わる現場で活躍する実務家、企業の役員の方、研究調査を行っている方など多様なゲストを招きリレー講義です。食の持つ可能性に視野を広げ、学部での学びが現場にどのようにつながるかを総合的に理解することができます。

ガストロノミックスタディプロジェクト

希望者を対象に、企業・地方自治体や海外の教育機関などの連携のもと、グループ活動を通じて課題を見出し、実践する科目です。課題解決力や、異文化理解能力、コミュニケーション能力を磨きます。

※本プログラムについては、大学の学費とは別に、プログラム参加費が必要になる場合があります。

PICK UP!

国内 ガストロノミックスタディプロジェクトI

地域の課題を解決するために、教室で検討した地域課題を踏まえて実際に現地を訪問し、仮説がどうなのか、また自分たちで取り組めることは何なのかを具体的に検討し、できることを実施するプログラムです。また、他の地域の状況なども踏まえて、先方の地域に可能性などをフィードバックしていくことを行っています。



国内 ガストロノミックスタディプロジェクトIII

GSPは、地域課題を受講者自らの考えで検討し、解決を試みるプログラムです。この授業では、地域の「食」の歴史や魅力を観光事業に活かしていくために、地域の人々と連携し、ガイドマップ作りを行いました。



学部独自の海外プログラム

[開講予定 海外プログラム] イタリア、ブルガリア、ベトナム、シンガポール

海外 ガストロノミックスタディプロジェクトI (イタリア)

中央イタリアから北イタリアを巡り、それぞれの滞在地で生産現場を訪ねて生産者と出会ったり、地域食材を試したり、ジェラート・ユニバーシティやチョコレートワークショップなどを体験します。最後は食科学大学での集中講義で締めくくります。



海外 ガストロノミックスタディプロジェクトI (ブルガリア)

ブルガリアの地域に根差した食文化を体験しながら、食を通じた異文化交流と地域活性化の可能性を探るプログラムです。一流シェフの指導による調理実習や保存食祭りへの参加、地元生産者との交流を通じて、多様な視点からガストロノミーの役割や食の新たな価値創造について考えます。



その他の正課・正課外活動について詳しくはこちら▶

4年間の学び

回生	1回生	2回生	3回生	4回生	
学びの流れ	（移行期） 食に関する多様な学問分野を連携付け、高度なマネジメント能力を身に付けるための基礎を培う期間、および基礎から発展への移行期間です。				
外國語科目	第1外国語科目 (英語) 第2外国語科目 [フランス語、イタリア語、スペイン語、ドイツ語、中国語、朝鮮語から1語種選択 (〇〇語には選択した語種が入る)] 基盤科目I	Study Skills a1 Study Skills b1 CALL1 〇〇語基礎1 〇〇語展開1 〇〇語基礎2 食と経営学（※） マーケティング論 食と経済学（※） 食科学探究 I 食科学のための情報処理（※）	Study Skills a2 Study Skills b2 CALL2 〇〇語展開2 マネジメント論 ミクロ経済学 —戦略・公共財・制度政策 マーケティング論 ミクロ経済学 —成長・開発・SDGs 食科学探究 II 食科学のためのデータ分析1	English Workshop English for Career Development マクロ経済学 —成長・開発・SDGs 食科学のためのデータ分析2	
食マネジメント学部	マネジメント科目 学際マネジメント科目 カルチャー科目 テクノロジー科目 総合講義	流通論 簿記入門 食の人文学 食品安全化学 栄養学 食品化学 総合講義 I (世界の食と経済) 総合講義 I (日本の食と経済)	アカウンティング 経営組織論 食と環境 食の歴史学 食の行動文化学 食の地理学 食の思想文化 行動経済学 マーケティングマネジメント論 経営戦略論 管理会計論 食と環境 食品安全管理と公衆衛生 食と地域振興 食のグローバルヒストリー 食のクロスカルチャーラ・スタディ 食のエリシア・スタディ 食の安全の基礎 食と先端技術 総合講義 II (食ビジネスの現在) 総合講義 II (グローバル化と食ビジネス)	国際経済学 人的資源管理論 行動経済学 マーケティングマネジメント論 経営戦略論 管理会計論 食品安全管理と公衆衛生 食と地域振興 食のグローバルヒストリー 食のクロスカルチャーラ・スタディ 食のエリシア・スタディ 食と認知科学 総合講義 III (食サービスの経営) 総合講義 III (食とメディア)	国際経済学 人的資源管理論 産業組織論 組織行動論 応用栄養学 資源循環論 総合講義 III (食とメディア)
食マネジメント専門科目	専門外国語科目 初等PBL科目 初等WS科目 初等演習科目 専門PBL科目 専門WS科目 専門演習科目 卒業研究	初等演習科目 専門PBL科目 専門WS科目 専門演習科目 卒業研究	Cross-cultural Workshop Business Communication Workshop ガストロノミックスタディプロジェクト I 食品機能評価学 おいしさと調理科学 基礎演習 入門演習 I 入門演習 II 入門演習 III 入門演習 IV	Food Business Workshop ガストロノミックスタディプロジェクト II ガストロノミックスタディプロジェクト III 食品開発 食認知科学研究法 官能評価学 専門演習 I 専門演習 II 専門演習 III 専門演習 IV 卒業研究 (※)	

(※)は必修科目

・上記は2026年度のカリキュラムです。今後、科目名称等が変更になる可能性があります。

・学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。 ➡ 教養科目 [P.130]

科目についての詳細は [オンラインシラバス 立命館](#) 検索

外国語の選択

[第1外国語] 英語
[第2外国語] フランス語／イタリア語／スペイン語／ドイツ語／中国語／朝鮮語 から1語種

詳しくはこちら▶



2025年度 教員・研究テーマ一覧

マネジメント	太田 達 小沢 道紀 工藤 春代 光斎 翔貴 酒井 純美 嶋田 敏 高田 剛司 谷垣 和則 西村 直子 張本 英里 齋 仁美 松原 豊彦 山口 美輪 吉積 己貴 SUR PRAMOD KUMAR カルチャー	文理融合の觀点から食の經營戦略における分野横断的かつ新たな學問領域の開拓 地域の食に関わるマーケティングおよびマネジメント 食のリスク管理・フードシステム研究 ライフサイクル思考における資源循環・安定供給・環境影響・生物多様性 食関連企業の財務会計・監査に係る研究 サービスプロセスの品質管理に向けたサービス工学、サービスマネジメント 地域経営、観光まちづくり、ガストロノミーツーリズム、商店街振興 食を含むグローバル企業の展開、グローバル化と各国文化の尊重 行動・実験経済学 食品などのリスク選択・持続可能なためのフューチャーデザイン アジアにおける日系食品企業のマーケティング戦略、伝統的市場での流通戦略 食にまつわる組織の中の人間行動、ワーク・ライフ・バランス カナダの穀物・油糧種子産業とアグリビジネス、日本農業・農村の第6次産業化 持続可能で健康的な食環境に関する研究 持続可能な地域づくり、住民参加型環境管理、持続可能な発展のための教育(ESD) 開発経済学、労働経済学、食を含む発展途上国での問題に関する研究 食の地理学、フードシステム、フードチェーン、大規模災害、食の安全保障	イタリア食文化、スローフード運動、食のアクティズム 漁業史、人と自然の関係史、近江国歴史、食の日本史 食と地域に関する民俗学的研究、日本の職人と民具 トイツを中心としたヨーロッパの食の歴史研究、食文化研究全般 食と農の社会学的研究、フードスタディーズ、食に関する社会調査の方法論 ヨーロッパ人種類学、乳食文化、ご当地ヨーグルト 食品における匂いの役割と人の味嗅覚の役割、官能評価、消費者調査 栄養と食事の歴史社会学(調理実践、科学知、ジェンダー、メディア、受容論、近代) 疫学のアプローチを用いた食の安全に関する研究 骨・カルシウム恒常性維持に必要な栄養条件の検討 応用健康科学、スポーツ栄養学、健康教育、栄養教育 人間の五感による感覚・知覚メカニズム、消費者認知 英語科目担当教員 宇佐美 彰規 大和田 和治 清水 裕子 中国語科目担当教員 加部 勇一郎
--------	--	---	---

食マネジメント学部

4年間の学び

専門演習(ゼミナール)

3回生から始まる「専門演習(ゼミナール)」は、1・2回生までの学びや知識を担当教員の下で、より深めることができます。所属クラスは多種多様な演習テーマの中から、個人の問題意識や興味・関心に基づき、自分自身で選択します。専門演習で身につけた知識や経験が卒業研究に繋がっていきます。



PICK UP! 高田ゼミ

「食による地域デザイン」を演習テーマとしている高田教授の専門演習(以下、高田ゼミ)では、三重県伊勢市の中心市街地を対象にフィールドワークや研究活動を行っています。毎年、高田ゼミの3回生が伊勢やまだ大学(伊勢市商店街連合会)と連携し、近年は、コロナ後の新たな賑わい創出を目指すワークショップやカフェなどの社会実験に取り組みました。4回生になると、3回生での経験を活かして、各自の関心がある「食」と「地域」についてテーマを決定し、卒業研究に取り組んでいます。

高田教授のコメント

私のゼミでは、一つのプロジェクトを協力して成し遂げることの大変さと楽しさを経験してほしいと思っています。そして「食」が地域活性化の重要なコンテンツになることも実感してください。

[所属ゼミ生からの声]

フィールドワークや卒業研究でのヒアリング調査、中間発表を通して、「話を聞き出す力」や「疑問を見つける力」、「論理的に組み立てる力」を身につけることができました。

地域の方々とのディスカッションを通じて、インターネットで調べるだけでは得られない「生の声」をたくさん聞くことができました。そして、地域のことを内側から深く知ることができました。

就活体験談や卒論の進め方の発表などを通してゼミ内の先輩と後輩が交流する機会があり、先輩が経験してきたことを学べることはとても貴重でした。

卒業生からのメッセージ

ゼミナール活動で身につけた主体性、アイデア力、コミュニケーション能力が仕事に活きている。

大学で学んだ知識を活かして人々の食生活を豊かにする仕事に就きたいと考え、はごろもフーズ株式会社に就職しました。現在、家庭用商品の営業担当として、スーパーマーケットや特約店に向けた新商品や企画の提案、店頭販売のフォローなどを行っています。大学のゼミナールでは、食を通した地域づくりとして、伊勢市の外宮周辺の商店街と連携した地域振興、琵琶湖の食資源についての調査・情報発信を行うプロジェクトなどに取り組み、他にも官民連携の商品開発プロジェクトに参加しました。自ら考え実践することを重視した授業を通して身につけた主体性・幅広いアイデアを生み出す力、外部の方との協働を通して鍛えられたコミュニケーション能力は、営業の仕事にそのまま活きています。もともと国内外の食文化に興味があり、将来的には語学を活かせる業務にも携わりたいと考えています。そのため、休日は流行の食べ物についてのリサーチや、料理教室での学びを通して食への知見を広げつつ、外国語学習にも励んでいます。

2020年4月、食マネジメント学部入学。学部の官民連携商品開発プロジェクトで商品開発を経験、入試広報学生スタッフとしても活動し、BKC統括としてオープンキャンパスなどの運営に携わる。2024年3月に卒業し、4月にははごろもフーズ株式会社入社。現在、営業担当として長野地域の店舗を担当。



中根 結南さん
はごろもフーズ株式会社 関東支店
(食マネジメント学部 食マネジメント学科 2024年卒業)

卒業研究

卒業研究は4年間の学びの集大成として位置づけています。各自が興味関心をもとにテーマ設定をして、専門演習(ゼミナール)を中心に入研究を進めます。

[2024年度優秀論文者のテーマ(一例)]

マネジメント	カルチャー	テクノロジー
・食のサステナビリティの現状と課題、今後について ～畜産分野と大豆ミート～	・キリスト教における食の意義 —聖書・聖人の食行動・絵画から読み解く—	・日本と欧米の養鶏場における鳥インフルエンザ発生リスクの分析
・日本の食品政策の科学的根拠と消費者の認知について —食品添加物と健康食品を事例に—	・近世京都の食文化に見る長崎卓袱料理	・バーチャルリアリティにおけるアバターの性別による食選択の違い～プロテオス効果の影響～
・mottECOを活用した外食産業における食品ロス削減の取り組み ・なごやめしの普及における成功要因の考察	・韓国において日本食の定着と認識変化	・旨味成分に対する腸上皮の応答性に関する研究
	・イタリアの販売禁止法にみる培養肉の発展と 食文化の保護	・大学生の食行動・食意識と塩味味覚閾値に関する研究

学部独自の施設

人の味覚や嗅覚、食品リサイクル、調理に関するフードテクノロジー関連授業で使う実習室をはじめ、アクティビティやグループ学習のためのスペースなど、学部独自の施設・設備を揃えています。

官能評価実習室

食品フレーバーの特徴や違いについて人の感覚や嗜好を測定できる実習室です。



ラボキッチン

授業での調理実習のほか、授業外のアクティビティにも使えるキッチンです。



ライブラリーギャラリー

学部の学びを深める展示や書籍のある学習スペースです。



ナポリのピザ窯

講習会などの課外活動で利用するナポリのピザ窯をキャンパス内に設置しています。



ハーブガーデン

食べられるハーブや実験に使用する果樹類を栽培しているガーデンです。



調理学実習室

食材をよりおいしく調理するための知識・技法を学びます。



堀 里菜子さん

三菱食品株式会社 SCM サポート本部 発注管理第二グループ C ユニット
(食マネジメント学部 食マネジメント学科 2024年卒業)

地域活性化が食ビジネスになる仕組みづくりを目指す。

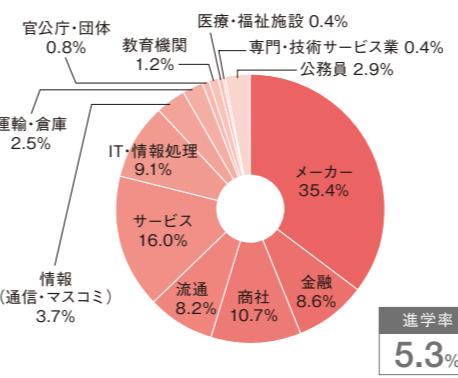
食を通して幸せを届け、持続可能な社会にも貢献したいと考えていた私は、「食のビジネスを通じて持続可能な社会の実現に貢献する」という企業理念に共感し、三菱食品株式会社に就職しました。現在は加工食品の発注を担当しています。さまざまな情報から商品の需要と供給のバランスを考え、お客様に安定的に食を届けることにつながる仕事に、やりがいを感じています。大学では、規格外野菜を使用した商品開発に挑戦しました。農家さんの想いを汲みつつ消費者ニーズも満たせるようチームで話し合いを重ね、価格設定、販路開拓、販売にも携わることで、商品がお客様の手に届くまではさまざまな人が関わっていることを実感できました。講義で学んだ知識を活用してアウトプットできる貴重な経験でした。学生時代に得た知識と経験のおかげで、現在でも食に対して常にアンテナを張り、多角的な視野を持つことができていると感じています。将来は、食を通じた地域活性化がビジネスになる仕組みづくりに挑戦したいため、さまざまな経験を積んでいきたいと思っています。

2020年4月、食マネジメント学部入学。在学中、「ガストロノミックスタディプロジェクトII」で香川県を訪問、現地の方と共に「食」を活かした課題解決、地域活性化に取り組む。2024年4月、三菱食品株式会社入社。物流センターで、商品のメディア露出状況や流通価格の変化などの情報をもとに発注量を調整し、在庫数量を適切に管理する業務を行う。

進路・就職状況

高度なマネジメント能力と実践的な行動力を身に付けて、食業界に限らず、幅広い分野で活躍しています。

[2023年度卒業生 業種別進路決定状況]



[2023年度卒業生 進路・就職先一例]

アイリストヤマ(株)	サッポロビール(株)	(50音順)
赤城乳業(株)	(株)ゼンショーホールディングス	マルハニチロ(株)
アサヒビール(株)	大和証券グループ	ミツカングループ
味の素AGF(株)	(株)ニッポン	(株)Mizkan J plus Holdings
(株)伊藤園	日本通運(株)	(株)村田製作所
(株)イトヨーハウス	(株)ニトリ	山崎製パン(株)
(株)NTTドコモ	日本食研ホールディングス(株)	ヤマザキビスケット(株)
(株)オイシス	はごろもフーズ(株)	(株)ゆうちょ銀行
(株)神戸屋	日立システムズ	(日本郵政グループ)
コーネル化粧品販売(株)	(株)ファーストリテイリング	ユニー・チャーム(株)
コカ・コーラボトラーズジャパン(株)	フジパングループ本社(株)	(株)LIXIL
国家公務員総合職(消費者庁)	(株)ブルボン	(株)りそな銀行
	(株)平和堂	(株)ローソン

○円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。○進学率=(進学者/(就職者+進学者))。ただし、進学者には大学院だけでなくその他の進学者を含む。○端数処理の関係で100%にならない場合があります。



理工学部

[数学物理系] ■ 数理科学科 (数学コース／データサイエンスコース)

■ 物理科学科

[電子システム系] ■ 電気電子工学科

■ 電子情報工学科

[機械システム系] ■ 機械工学科 (機械創成工学コース／機械情報工学コース)

■ ロボティクス学科

[都市システム系] ■ 環境都市工学科

■ 建築都市デザイン学科



STUDENT'S VOICE

高度な機械技術を用いて、性能の高いものづくりで社会に貢献したい。

夏のオープンキャンパスで立命館大学を訪れ、ロボット技術研究会の二足歩行ロボットに魅力を感じ受験を決めました。理工学部の4年間ではロボット技術研究会に所属したほか、学内ボランティア活動に参加し、また教員免許も取得しました。大学生活を経て、身についた機械制御に関する知識や機械加工の経験をさらに積みたいと考え、大学院への進学を選びました。大学院では研究に必要な知識を自分で探し追究する力を養うとともに、加工技術の見識を広げることで、加工の幅が広がり、精度の高い物を作り出す力が身につきました。

現在の研究テーマは、「外側ロータ構造の5軸能動位置制御型アキシャルギャップセルフベアリング永久磁石モータを用いた小型遠心ポンプの開発」です。浮上力を制御するための電流を追加することで、軸受の不要なモータの実現を目指しており、現在はこの装置を安定稼働させるための制御装置を製作しています。最終的には、この仕組みをポンプに応用し、流体を流すことが目標です。非接触で作動し潤滑油も不要、つまりメンテナンスフリーという特長を持つモータの利点を活かして、人工心臓などのポンプ分野に応用し、性能の高いものづくりで社会に貢献したいと考えています。

大学、大学院では新しい分野を学ぶことの楽しさや、問題を一つずつ解決していくことに達成感を感じました。ロボット技術研究会では、ロボットのコンセプトの考案からモーション作成まで、すべてを行いました。何度もやり直しや調整を行い、最終的にロボットが動いた時の感動は、何物にも代えられることができません。これらの経験は、大学院までの6年間で私が過ごした大切な時間であり宝物です。これからもロボット製作や、ものづくりを続けていきたいと思います。



宮田 麻未 さん
理工学研究科 機械システム専攻
機械工学コース
博士課程前期課程 2回生
東京都・山脇学園高校出身

取得学位	数学物理系…学士(理学)、電子システム系・機械システム系・都市システム系…学士(工学)
アドミッション・ポリシー	<p>理工学部は、数学と理科の確かな学力と論理的思考力を兼ね備えた、以下のような意欲的な学生を求めています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 旺盛な好奇心と鋭い問題意識を持ち、物事の本質をよく理解し、課題を見つけようと努力する者 科学技術や社会の動向に关心を持ち、幅広い視野から創造的に物事をとらえようとする者 他人の立場が理解でき、寛容な精神を持ち自己を律することができる者 確かな自分の意見を持ち、新しいことに挑戦する気構えがある者

数理科学科 (数学物理系)

※2020年度より、数理科学科は数学コースと、データサイエンスコースの2コース制となりました。



海外からの招聘教授による講義

物理科学科 (数学物理系)

全ての自然科学と工学の中心に、物理学がある。

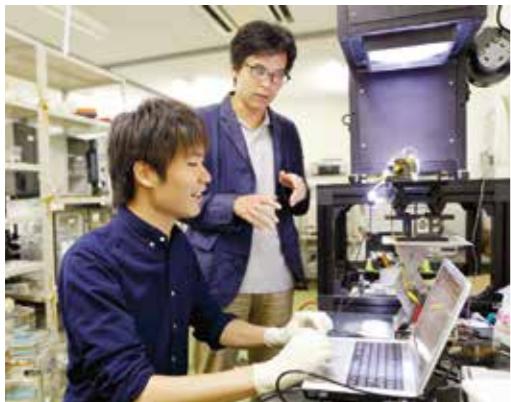


最先端の専門的研究に取り組む

物理学は、自然現象に潜む法則性を明らかにし、宇宙・地球・物質・生命・社会などの「この世界はどのように成り立っているのだろうか」という本質的な問いに答えようとする学問です。めまぐるしく変化し多様化する現代社会を生き抜くための、普遍的で強靭な知的基盤を修得できるのが物理科学科です。本学科では、系統的な専門科目の学修を通じて、全ての自然科学と工学を支える、力学、電磁気学、熱統計物理学、量子力学などの基礎概念を修得します。さらに、多彩な物理学実験、データ計測・処理・解析、プレゼンテーションなどを通じて、論理的かつ定量的な思考力とその実践的な応用力を身に付けます。自然の仕組みに関する深い洞察力を養い、科学と技術を架橋する広々とした学問的視野を身に付けることで、より良い社会の創出に貢献する人材を育成することが、物理科学科の教育目標です。

電気電子工学科 (電子システム系)

電気電子工学の技術の進化に寄与する、想像力豊かなグローバルリーダーを目指す。



卒業研究の様子 (新型太陽電池の性能評価)

電気電子工学は、エネルギー・情報通信などの社会基盤を支える重要な分野です。本学科は、電気電子工学の幅広い分野を網羅しながら、専門知識と技術を修得するカリキュラムを提供します。学生は、1回生で基礎となる数学・物理学を学び、2回生以降は2つのコースに分かれて専門性を深めます。

両コース共通科目では、電気・電子回路、通信・計測工学、AI・機械学習など、電気電子工学の根幹を成す知識を学ぶとともに、実験・演習科目を通じてその応用力を身に付けます。これに加え、先端電子デバイスコースでは、電子デバイスの設計、作製、応用に関する専門知識を、先端電子システムコースではシステムの設計、解析、運用のための専門知識を修得します。さらに、これらの集大成となる研究活動を通じて、技術の急速な進歩・多様化に対応し新たな技術を生み出す創造性を養います。



・上記は科目名ではありません。・「卒業研究」は必修です。卒業には上記以外も学ぶ必要があります。
・上記は2026年度のカリキュラムです。

[2025年度 教員・研究テーマ一覧]

◆ 青井 久	フォノノイマン環の構造解析
赤堀 次郎・鈴木 良一・ ★ 小山 翔平・田村 勇真	確率論
◆ 大坂 博幸・水口 洋康	関数解析、作用素論、作用素環論
● 加川 貴章・林 太郎	代数学(整数論、代数幾何学)
KOHATSU-HIGA Arturo・ ★ 中川 卓也	金融など多様な分野に応用できる新しいシミュレーション方法
★ 佐藤 寛之	数理最適化
■ 多羅間 大輔・本永 翔也	力学系理論、幾何解析とその応用
野澤 啓・高橋 典寿・ 野本 統一	力学系、群作用、微分幾何
■ 福本 善洋	ゲージ理論のトポロジーへの応用
◆ 藤家 雪朗	微分方程式の漸近理論
★ 安富 健児	確率論及び数値解析
◆ 渡部 拓也	複素領域における微分方程式

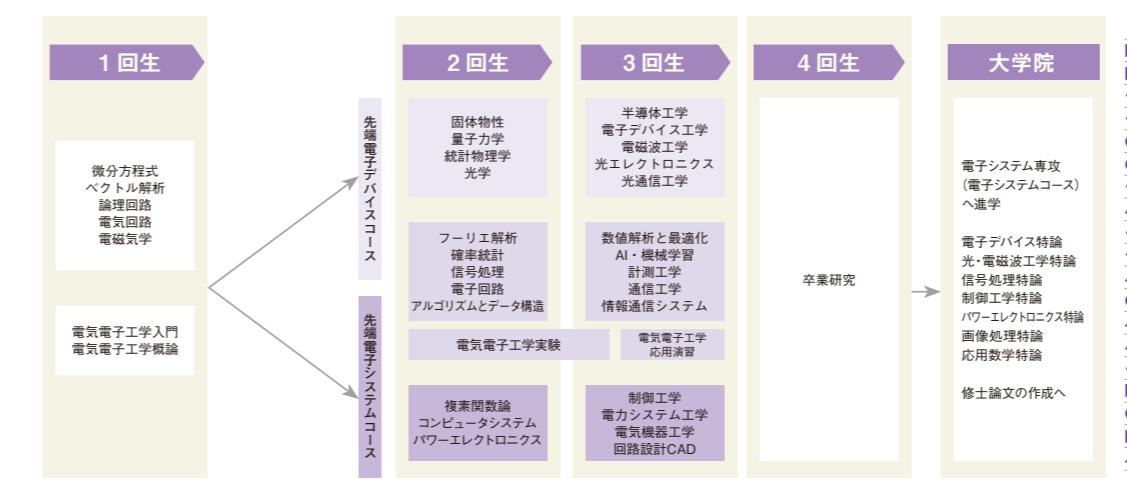
●代数系／■幾何系／◆解析系／★応用数学系



・「卒業研究」は必修です。卒業には上記以外も学ぶ必要があります。・上記は2026年度のカリキュラムです。

[2025年度 教員・研究テーマ一覧]

● 池田 浩章・福井 稔勇・森 達明	高温超伝導体、新しい量子相の発見を目指して電子状態の分光によるスピントピカル性の機構解明
■ 今田 真・中田 惠奈	地震発生メカニズム・地震波の伝わり方
◆ 川方 裕則・佐藤 泰典	先端的レーザー分光法を用いた誘電体素励起の励振と精密測定
■ 是枝 賢肇・大石 栄一	非線形動力学 原子分子の運動に潜む非線形性
● 清水 寧	超弦理論(超ひも理論)と素粒子の統一理論
● 菅原 祐二・横山 修一	放射光励起による原子軌道状態制御
■ 滝沢 優・前島 尚行	多波長観測で探る銀河と超巨大ブラックホールの共進化
■ 鳥羽 優樹	メゾ領域の相転移、界面現象の研究
■ 中田 俊隆	実験物理学特論
■ 平井 豪	理論物理学特論
◆ 根本 泰雄	地球物理学特論
■ 深尾 浩次・吉岡 潤	修士論文の作成へ
■ 森 正樹・川内 紀代恵	ソフトマターの構造形成とダイナミクス
● 萩 博之	高エネルギー物理学、系外惑星を主とした光赤外線天文学
◆ 吉田 晶樹	場の量子論による研究、ミクロからマクロまで
■ 米田 大樹	地球内部ダイヤモンドの数値シミュレーション
● 和田 浩史	マクロな自然現象の物理学
● 理論物理学／■実験物理学／◆地球物理学	生命の動き、かたち、パターンを物理と数学で解き明かす



・「卒業研究」は必修です。卒業には上記以外も学ぶ必要があります。・上記は2026年度のカリキュラムです。

[2025年度 教員・研究テーマ一覧]

■ 荒木 努	21世紀を担う最先端の半導体エレクトロニクス研究
■ 今井 茂	単電子デバイスの動作に関する理論研究
◆ 宇野 重康	ナノバイオエレクトロニクス技術とデータAI量子技術
◆ 岡野 訓尚	サイバーフィジカルシステムの解析、設計、制御手法
● 桑ヶ野 浩明	電力供給システムへのパワーエレクトロニクス応用
● 川畑 良尚	インテリジェントパワーエレクトロニクス
◆ 久保 幸弘	衛星測位およびその応用技術に関する研究
▲ 佐野 明秀	光ファイバ通信システムに関する研究
◆ 高山 茂	センシングネットワークによる計測システムの応用展開
◆ 鷹羽 清嗣・難波 巧	大規模ネットワークシステムのモデリング、推定、制御
▲ 濱口 浩一	光信号処理技術と光・THz帯通信/センシング/光コンピューティングへの応用
● 田口 耕造	環境発電デバイスの高性能化に関する研究
▲ 沼居 貴陽	光と電子の相互作用の工学への応用
▲ 野坂 秀之	6G時代のアナログ新回路アキテクチャの研究
◆ 福水 洋平	安全・安心社会のためのマルチメディア応用技術
■ 藤井 茉美	先進デバイスを実現するワイドバンドギャップ半導体材料の作製と応用
● 岩元 高志・河野 悠	次世代型太陽電池のデバイスマデリングと屋外実証評価
■ 毛利 真一郎	原子層半導体の物性解明と次世代デバイス応用
▲ 渡邉 遼	光情報を活用した計算イメージングとレーザー加工

●エネルギーの高効率生成と有効利用/▲光と電子を活用した情報通信の高度化/■電子機器を変革するデバイス・材料/◆社会に貢献するシステム制御・最適化

[全学科共通] 学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。⇒ 教養科目 [P.130]

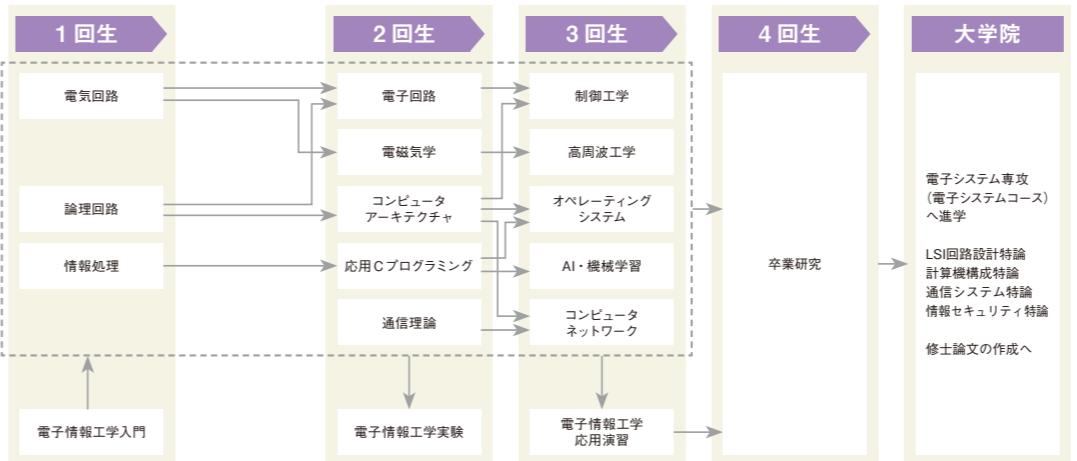
電子情報工学科（電子システム系）

「エレクトロニクス」「コンピュータ」「情報通信」3つの分野のプロフェッショナルとして世界で活躍する。



AIを組み込んだ電子情報システムの設計

「エレクトロニクス」「コンピュータ」「情報通信」は、安心・安全な社会基盤を実現するための重要な技術分野です。電子情報工学科では、これら3分野を柱とする幅広い専門領域において教育・研究を実践しています。近年の、エネルギー、地球温暖化など地球規模の問題から、医療、情報セキュリティなど個人レベルの問題まで、それらを解決するには、数学や物理学の根本原理を理解し、電気・電子回路、コンピュータやソフトウェアなどの専門知識、ネットワーク通信やシステムLSIに関する応用知識を身に付け、電子回路設計やプログラミングなどの実践的な技術を磨くことが必要不可欠です。あらゆる分野で必須となるこれらの専門知識・技術を身に付け、国際的にも活躍できる、わが国を支える技術者を育成します。



・「卒業研究」は必修です。卒業には上記以外も学ぶ必要があります。・上記は2026年度のカリキュラムです。

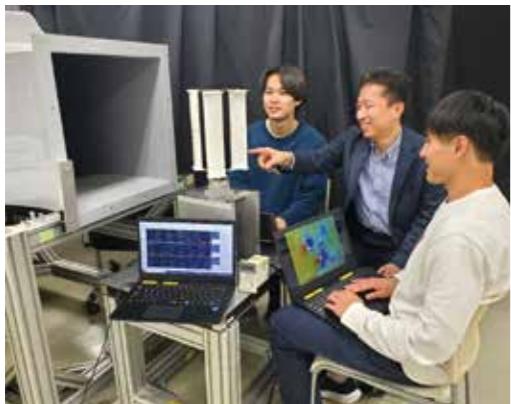
[2025年度 教員・研究テーマ一覧]

■ 泉 知論・李 誠	“やわらかいハードウェア”とその応用
● 大倉 俊介・吉田 康太	イメージセンサとそのIoT応用の研究
◆ 久保 博嗣	安全・安心をサポートする無線通信システムの実現
● 熊木 武志	独創性のある集積回路の研究とそれを利用したマルチメディアシステムの開発
◆ 佐保 賢志	レーダー技術を基礎とする運動情報解析システム
● 田中 亜実	低電力センシングシステムの開発
■ 富山 宏之	システムオンチップや組込みシステムの設計方法論
◆ 中山 良平	画像処理・解析基礎技術の開発と医用画像への応用
● 藤田 智弘	知能情報処理システムの開発
■ 藤野 毅・吉田 康太	コンピュータのセキュリティ応用
◆ 馬杉 正男	環境情報および生体活動に関する信号計測処理、生体活性化技術に関する研究
◆ 三木 信彦	6Gに向けた無線通信システムの研究
■ 孟 林・李 誠	画像認識・高性能計算・人工知能の研究と応用

● エレクトロニクス / ■ コンピュータ / ◆ 情報通信

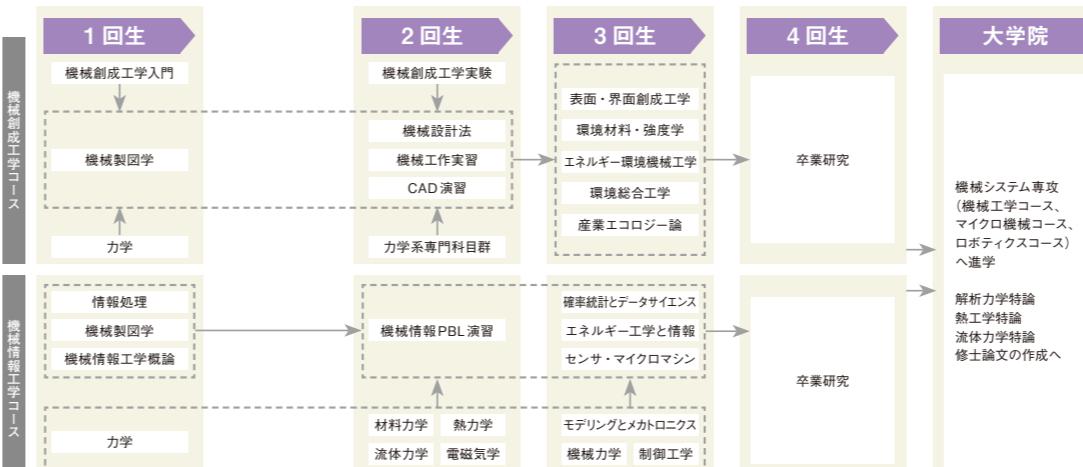
機械工学科（機械システム系）※2026年度より、機械工学科は、機械創成工学コースと機械情報工学コースの2コース制となります。

最先端テクノロジーを学び、産業と工業の未来を切り拓く！



風洞実験による風車の出力計測

機械工学は飛行機や自動車からマイクロマシンまで幅広い分野で活躍するモノづくりの基盤を支える学問です。本学科は、材料、設計・生産、制御・システム、情報、環境・エネルギーなどの基礎から、最先端の技術までを追究する教育を提供します。また、学生の興味や目標に応じた学びを展開するために、2コース制を導入しています。機械創成工学コースでは、持続可能な社会の実現を目指し、環境やエネルギーに関連する革新的なモノづくりの能力を養うことができます。一方、機械情報工学コースでは、情報化社会で求められる機械工学の新たな可能性を切り拓く能力を養うことができます。本学科はこの2コースでの先進的な教育により、多彩な視点と実践力をそなえ、未来の産業と工業を先導できる人材を育成します。



・「卒業研究」は必修です。卒業には上記以外も学ぶ必要があります。・上記は2026年度のカリキュラムです。

[2025年度 教員・研究テーマ一覧]

■ 安藤 妙子	極微細ものづくりとその基盤・応用技術の研究
■ 破坂 瑛宏	微小デバイスの創出とバイオへの応用
● 伊藤 隆基	多軸負荷における機械材料の強度および信頼性評価
◆ 上野 哲・趙 成岩	磁気浮上・磁気軸受システムの開発
● 日下 貴之	機械構造物の強度設計と健全性評価
■ 小西 聰	小さな機械(MEMS)の新機能創成とその応用
■ 小林 大造・北川 彩貴	薄膜材料の機械電子物性の研究
● 村田 順二	機能性材料の精密表面プロセス技術の研究
■ 徳田 功・顔 聰	リズム機構の解明と工学応用
■ 鳥山 寿之	マイクロマシニング技術を応用了したマイクロ機械設計
◆ 日高 勇気	数値解析・AIを活用した新構造モータの開発
● 藤原 弘・久野 智子	マイクロ構造制御による次世代高機能材料の開発
◆ 山末 英嗣	エネルギー・資源循環とリサイクルに関する文理融合型研究
■ 山根 大輔	マイクロマシン技術のセンシングおよび発電への応用
◆ 吉岡 修哉	流体力学に基づく環境技術の研究
● 渡辺 圭子・木内 真人	衝撃波を伴う高速衝突現象の解明
◆ 渡部 弘達	炭素循環に向けた燃料電池・電気分解・水素生成

● 材料・構造・加工分野 / ■ マイクロ機械分野 / ◆ 热・流体・制御分野

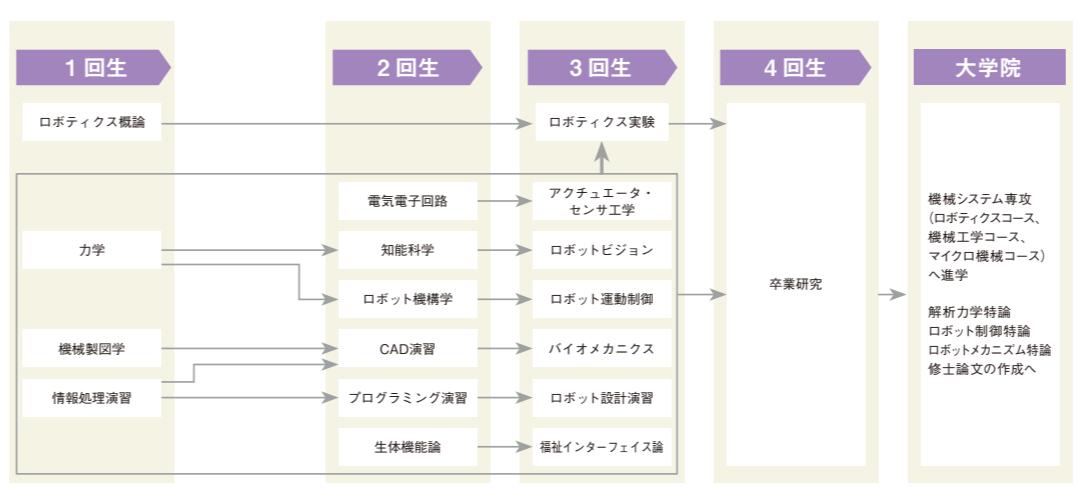
ロボティクス学科（機械システム系）

工学分野を広範囲に学び幅広い領域で活躍するロボット開発に挑む。



飛行ロボットとその産業応用に向けた研究

1996年に設立された、日本初のロボティクス学科です。現在、1,600名を超える卒業生が、機械、電気、情報、医療・福祉などの幅広い分野で活躍しています。ロボティクス学科のカリキュラムでは、ロボットの基本である機械工学をはじめ、電気・電子工学、情報技術や、今後ますます重要となる人間支援技術の基礎をバランス良く学修します。さらに、センサ、アクチュエータ、コンピュータ等の要素を統合してロボットを構築するための科学と技術を修得します。多様な先端テクノロジーに精通し、それらを統合して、産業用の製造ロボットをはじめ、宇宙・海洋開発や原子炉内の点検、家事や医療・福祉などの新しいロボット開発に生かせる問題発見能力・問題解決能力を持った技術者・研究者の育成を目指しています。このような幅広い知識を有する人材は、産業界からも強く求められています。



・「卒業研究」は必修です。卒業には上記以外も学ぶ必要があります。・上記は2026年度のカリキュラムです。

[2025年度 教員・研究テーマ一覧]

◆ 上杉 薫	バイオロボット、分子ロボットに関する研究
◆ 植村 充典	未知環境で活躍できる軽量ロボットや環境認識法
■ 岡田 志麻	新しい生体機能の解明と医療・福祉分野への工学の応用研究
★ 加古川 篤	屋外で利用可能なロボットやアクチュエータの研究開発
● 玄相 美	ヒューマノイドロボットと油圧制御技術
■ 下ノ村 和弘	ビジョンを中心としたロボットのセンサ・知能化技術
◆ 手嶋 敦之	障害者・高齢者のための福祉機器の研究開発
◆ 野方 誠	診断治療ロボット、高機能小型医療機器
◆ 平井 健一	ソフトロボティクスに関する研究開発
◆ 王 忠奎	柔軟物ハンドリング用ロボットシステムに関する研究

● コントロール / ■ センサ / ◆ システム / ★ メカニズム

環境都市工学科（都市システム系）

環境問題の解決と社会基盤の防災を通して、SDGsの実現に貢献する。



土壌分析のための凍結乾燥処理

複雑化する環境問題の解決や、激甚化する自然災害への備え、そして歴史や文化を守りつつ老朽化し空洞化する都市を再構築するためには、確かな知識を持った技術者の存在が欠かせません。環境都市工学科では、環境科学や計画理論の基礎を学んだ上で、2回生から環境システム工学コース・都市システム工学コースのいずれかを選択し、専門性を高めていきます。また「環境工学デザインプログラム（JABEEプログラム）」を履修することで、修習技術者（技術士補相当）の資格が得られます。卒業後は技術系公務員をはじめ、環境産業・鉄道・高速道路・建設会社・コンサルタント、ディベロッパーなど、より良い社会基盤の発展に係わる人材として活躍することが期待されます。豊かな環境や歴史文化とともに快適な生活を目指す本学科は、高校までに学んだ教科全ての知識を応用して生かすことができます。



[2025年度 教員・研究テーマ一覧]

- 市木 敦之 環境管理計画策定のための現象解析及び政策分析手法に関する研究
- 井上 和真 社会基盤構造物の防災・減災・危機管理に関する研究
- WELLS John Craig 洪水などを水災害を防ぐための基礎研究
- 大庭 健之 歴史都市の防災まちづくりと、伝統文化を活かした防災環境のデザイン
- ◆ 岡井 有佳 持続可能な都市の構築・マネジメントのための都市計画・まちづくり
- ◆ 小川 圭一 都市交通計画のための交通行動分析と交通現象分析
- 神子 直之 安全な水道水のための物理化學的処理方法の研究
- ◆ 川崎 佑磨 社会基盤施設の防災と未来に繋がるコンクリートの研究
- ◆ 金 康源 魅力的なまちづくりのためのアーバン・コミュニティデザイン手法の研究
- 小林 泰三・伊藤 真一・唐 佳潔 地盤工学のデジタルトランスフォーメーション
- 佐藤 圭輔 気候変動による水資源・沿岸域の脆弱性評価と統合的流域管理手法の構築
- 里深 好文 河川流域のあるべき姿を探求する
- ◆ 塩見 康博 持続可能な社会の創成に向けて交通システムの実現
- 重富 陽介 持続可能なライフスタイルとそれを支える社会システムの見える化
- 沈 尚 微生物や植物を用いた水質浄化と資源回収に関わる技術開発
- ◆ 野坂 克義 社会基盤施設（主に鋼構造）の設計・維持・管理（造る・守る）
- ◆ 野村 泰穂 都市基盤の維持管理と建設分野の情報化のためのマネジメント技術開発
- 橋本 征二 循環型社会の評価手法とシステムデザイン
- 稲口 能士 大気質・悪臭の評価と制御
- 藤本 将光 山地・河川の自然環境への理解を深め、安全な暮らしを追求する
- 三浦 陽介 気候変動と陸域水循環の相互作用を明らかにする

●環境を創造する／■灾害を防ぐ／◆都市を見守る

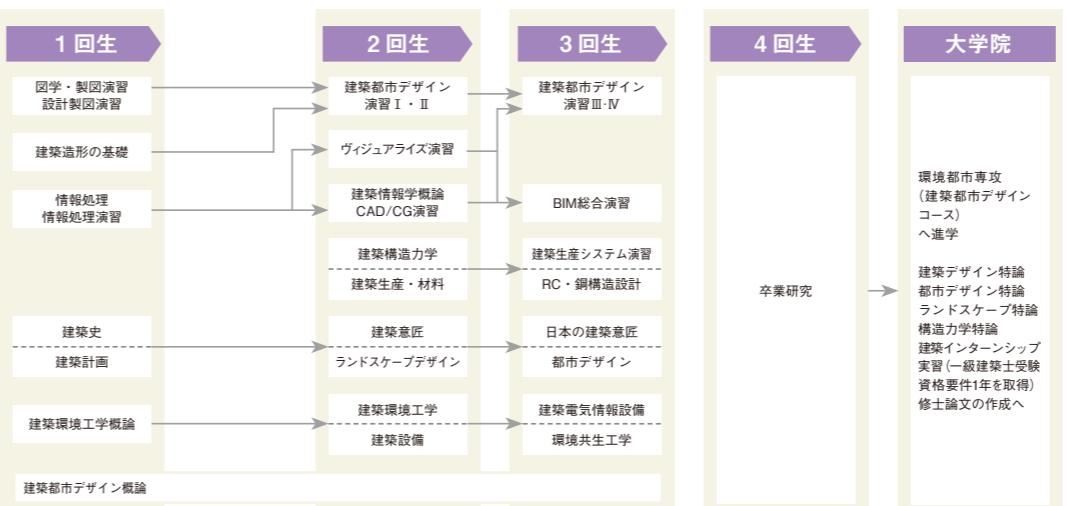
建築都市デザイン学科（都市システム系）

美しく健全な国土の実現を目指し、建築と都市をデザインする。



卒業設計の公開講評会における学生プレゼン

建築・都市に関する歴史や文化のコンテクストを読み取り、地域の個性を生かしながら、建築・都市文化を継承・創造する理論と方法を理解するために、必要な技術に関する教育研究を行います。そして、建築や都市のデザインに関する新しいニーズ、複合的な課題に応える人材を育成します。美しく健全な国土の実現を目指して、人に身近な「建築」と、その総合的環境である「都市」をデザインする能力を養うため、設計製図・歴史・意匠・都市・景観、建築計画・法規・環境・設備・構造・建築材料・生産施工・情報技術といった各専門領域を統合する教育を展開し、「建築」「都市」を創造する能力を身に付けます。1回生より各専門領域の選択必修科目を配置し、専門領域を系統的に学修します。



[2025年度 教員・研究テーマ一覧]

- 青柳 審昌 日本の建築の歴史に関わる研究と歴史的建築の保存
- 阿部 俊彦 都市と建築をつなぐデザイン・まちづくりソーシャルアート
- 遠藤 直久 木質構法の発展と応用
- 木村 智 ランドスケープ論、建築論、テクトニックの西洋建築史
- ◆ 近本 智行 建築・都市環境工学、建築設備、環境共生
- 平尾 和洋 建築設計プロセス・建築意匠（防災意匠含む）・古民家再生
- ★ 福山 智子 鉄筋コンクリート構造物や建築材料の耐久性評価・診断
- ◆ 本間 睦朗 光環境計画とその周辺技術、照明デザイン、建築電気設備設計
- 宗本 晋作 新しい設計方法と被災地におけるまちづくりの実践
- ★ 持田 泰秀 モノ造りと新しい材料や工法の開発
- 山田 恒史 建築情報学によると建築都市デザインの拡張と高度化
- ★ 吉富 信太 力学原理に基づく建築構造物の合理的設計
- ◆ 李 明香 建築環境工学、建築設備、省エネルギー建築、住環境の快適性評価

●都市・景観／■設計・計画・歴史／◆環境・設備／★構造・生産・材料

理工学部の海外留学プログラム

理工学部では、海外から留学生を受け入れるとともに、日本人学生を海外に派遣しています。また、協力協定を締結している海外の大学は年々増加しており、理工学部の国際的ネットワークは拡大を続けています。海外へ留学する学生をサポートする体制も整えており、毎年多くの学部生・大学院生を海外の大学や企業に送り出しています。

国際的視野を持った理工系人材の育成

理工系2学部・研究科では、異文化・多様性社会の中で活躍できる高度理工系人材の育成を目指して、課題解決型のプログラムを実施。インドにおける課題を事前に調査し、解決策を現地研修先にて英語を用いてプレゼンテーションを行います。



課題解決案の中間発表



インド現地研修

～ハワイ大学留学プログラム～

2、3回生を対象とした3週間の留学プログラムです。ハワイ大学で本プログラムのために特別に用意された講座（理工系の内容の講座、ハワイの文化に関する講座）や英語学習の講座を受講します。その他にも、各種フィールドトリップやハワイ大学の学生との交流など、盛り沢山の企画が用意されています。本プログラムを通して、英語の総合的・実践的運用能力を培い、国際社会の一員として積極的な役割を担うべく、皆さんの将来展望をより具体的なものとしてください。



ハワイ大学マノア校での授業

上記以外にも理工学部独自にグローバルエンジニアプログラム（全学科対象）、海外スタディプログラム（都市システム系対象）、パリ・ラ・ヴィレット建築大学（ESAPLV）への交換留学（都市システム系対象、大学院）等と多彩な留学プログラムを用意しています。詳細は各プログラムの募集要項で案内します。

英語教育

未来の科学者・技術者を育成するため、理工学分野での学術およびキャリア活動に応用できる英語運用能力と、プレゼンテーション、ディスカッション、批判的思考などのスキルを、高回生まで学習の継続が可能なカリキュラムで養成します。

学びの特色

自発的学びへ導く

■ 物理駆け込み寺・数学学修相談会

物理・数学に関するよろず質問相談所

予約不要で、物理・数学に関するさまざまな質問・悩みに答えてくれるサポートルームを常時開設しています。理工学部の教員だけでなく3回生から大学院生までさまざまな学科の学生講師が、個別に質問に対応し、単に答えを教えるのではなく、考え方を議論するなど学びあいの場として機能しています。



物理駆け込み寺

■ 低回生研究室体験制度

早期の研究室体験による学修意欲の向上

低回生時に研究室を体験でき、教員指導の下、研究の一端に触れる制度です。簡単な実験や先輩学生との交流の経験は、4回生の研究室配属に向けて自身が深めたい専門分野を考えるきっかけになります。また低回生で学ぶ専門科目の内容が、今後の学修や実際の社会にどのように関わるのかイメージを膨らませることができ、学修の意欲を高めることができます。



研究室で大学院生とドローンの動作検証を行う低回生

技術に触れる

■ 技術者のキャリア

リレー形式で行う技術者の講演

理工系学生の進路とされる業種の技術者を招き、リレー形式で行う科目を配置しています。技術者から、最新の技術開発動向や、技術者に求められる資質等を講演いただきます。将来の職業観や職業適性についての意識を高めます。

■ ワークショッップラボ(工作センター)

設計・制作・加工を通じた実践力育成

さまざまなものづくりに必要な旋盤、フライス盤、NC工作機械などの設備を備え、道具や作業工程に関するアドバイスを受けることができます。



NC工作機械

視野を広げる・主体性をのばす

■ 専門ゼミナール

学科横断型の専門科目

学科・回生横断型の「専門ゼミナール」では、専門の異なる学生同士がグループで多角的な視野で調査、分析、提案を行います。他学科の学生と議論してさまざまな専門分野に触れることで、自身の専門分野の理解をより深め、多面的な課題解決能力を身に付けることができます。また上回生と下回生が回生を超えてつながり、学生同士の学びあいを進めています。



「テーマ: IoTセンサ技術の革新と起業家マインド」での様子

■ ピアラーニングスタジオ

学生による学びあい

学生・院生が、学科や専攻の枠を越えて、共に学ぶためのスペースとしてピアラーニングスタジオを設置しています。留学生との交流イベントや英語の学習会など、学生スタッフが主体となって、学生が共に学びあうさまざまな企画を実施しています。



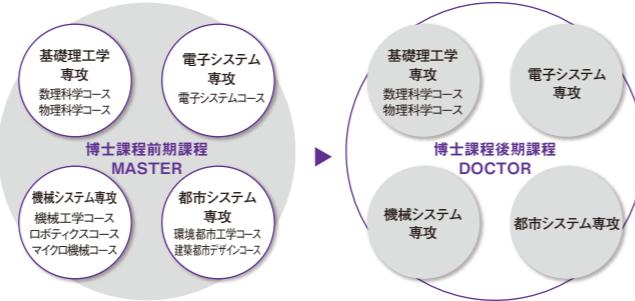
オリジナルアンプの製作会

専門性を高める

■ 大学院進学

高度理工系人材として、活躍できる力を身に付ける

理工学部では、理工学研究科(大学院)への進学を推奨しています。理工学研究科では専門領域における問題設定・解決能力をもって科学技術の発展に寄与し、社会を健全な形で維持・改善していくために研究を進めています。そして、社会が抱える多様な問題の解決に貢献すべく、理工学の専門領域における高度な知識と技術に加え、創造的な発見・研究能力を兼ね備えた研究者、高度専門職業人の育成を目指しています。



卒業生からのメッセージ

フィールド試験で得た知見が仕事にも活きている。
真に社会から求められる技術を実現できる技術者へ。

大学の研究室で経験した「検討した理論がものとして動く」ことに楽しさとやりがいを感じ、幅広い製品に自分の技術を搭載するチャンスのある総合電機メーカーを選びました。今はインフラ向けの無線通信システムに関する通信方式の研究開発などに携わっています。大学では、音を使った水中無線通信システムの研究室に所属していました。音響機器を携えて琵琶湖岸でフィールド試験をしたり、大学外の研究機関と連携したり、多くの貴重な経験をしました。フィールド試験を通して得た、理論を実機に落とし込むための知見は、現在の仕事にも活きています。複数人で課題解決する経験を通して、研究を進める上でのコミュニケーションの大切さも知りました。将来の目標は、真に社会から求められる技術を実現できる技術者になることです。製品開発を効率化することで、研究・開発メンバーがゆとりを持ち、描きたい未来とその未来に必要となる技術を前向きに考えられる環境づくりに寄与できればと考えています。

2012年4月、理工学部電子情報工学科に入学。2016年4月、理工学研究科進学。当時国内でほとんど研究されていなかった、音を使った水中無線通信システムの研究に携わり、在学中に国際学会での発表も経験。2018年修了後、三菱電機株式会社に入社、先端技術総合研究所で、信号の劣化が大きな環境下でも動作する無線通信方式の研究開発などに携わる。



三菱電機株式会社 先端技術総合研究所
(理工学研究科 博士課程前期課程 電子システム専攻 電子システムコース 2018年修了、理工学部 電子情報工学科 2016年卒業)

自動車業界の未来を見据え

お客様の多様なニーズに応える車両を追求する。

新型車両群の基本骨格開発プロジェクトにおいて、性能・品質・コスト・生産性を高レベルで達成できる車両構造および工法の提案・実現に取り組んでいます。大学院時代には、電子による物性メカニズムについて研究していました。物性観測実験では、実験環境に求められる条件を満たすべく、試行錯誤を重ねながら進めていました。その経験が、仕事における課題発見や解決策の導出、さらには行動力へもつながっていると感じます。また実験には、さまざまな準備を要し、測定が何日間にも及ぶことも多いため、メンバーの各実験にも参加し、互いに協力していました。現在、関係部署や協力会社の方々と議論を交わし、一体となって業務を遂行できているのは、研究を通してチームワークの重要性を学べたからこそだと感じています。これからも、多くのニーズに寄り添える車両構造の実現を目指し、力を尽くしていきたいです。



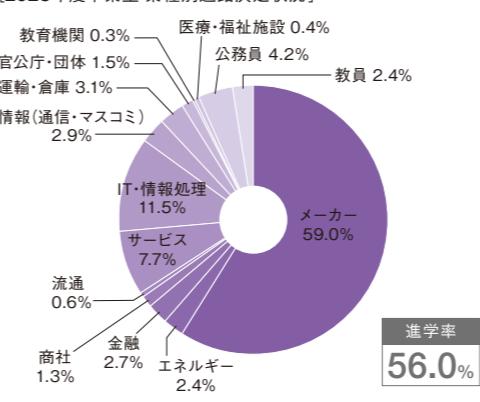
トヨタ自動車株式会社 製品化製造技術部
(理工学研究科 博士課程前期課程 基礎理工学専攻 物理科学コース 2015年修了、理工学部 物理科学科 2013年卒業)

2009年4月、理工学部物理科学科に入学。2013年4月、理工学研究科進学。グローバルに社会貢献できる仕事に就きたいとの思いから、2015年、トヨタ自動車株式会社に入社。中国の研究開発/技術サービス拠点であるトヨタ自動車技術センター(中国)有限会社への出向を経て、2021年より製品化製造技術部に所属。

進路・就職状況

科学技術の専門知識を現代社会の課題解決に役立てる。
学部の学びや研究を通して得た高度な専門知識・技術を生かして、多くの卒業生が社会で活躍しています。

■ 2023年度卒業生 業種別進路決定状況



■ 2023年度卒業生・大学院修了生 進路・就職先一例

専門	企業名
数理科学科	電子システム系 (株)NTTドコモ (株)クボタ
スズキ(株)	(株)大林組 第一生命保険(株) 関西電力(株) ソニー(株) TDK(株) 京セラ(株) (株)みずほ 住友電気工業(株) ダイキン工業(株) 明治安田生命保険相互会社 トヨタ自動車(株) 日本電気(株)(NEC) パナソニック ホールディングス(株) 京セラ(株) ダイキン工業(株) 三菱電機(株) 中部電力(株) (株)村田製作所 三菱電機(株) ローム(株) ヤマハ(株)
機械システム系	(株)竹中工務店 西日本高速道路(株) (株)日建設計 日本工営(株) 東日本旅客鉄道(株) (株)日立製作所 東日本旅客鉄道(株) (株)村田製作所 国家公務員総合職 地方公務員(上級職) (特許庁)
都市システム系	(株)鹿島建設 清水建設(株) トヨタ自動車(株) (株)竹中工務店 西日本高速道路(株) (株)日建設計 日本工営(株) 東日本旅客鉄道(株) (株)日立製作所 東日本旅客鉄道(株) (株)村田製作所 国家公務員総合職 地方公務員(上級職) (特許庁)

○円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。○円グラフには研究科を含む。○進学率=〔進学者/(就職者+進学者)〕。ただし、進学者には大学院だけでなく他の進学者を含む。○端数処理の関係で100%にならない場合があります。



生命科学部

- 応用化学科
- 生物工学科
- 生命情報学科
- 生命医学科

取得学位	応用化学科…学士（工学）または学士（理学） 生物工学科…学士（工学） 生命情報学科…学士（理学）または学士（工学） 生命医学科…学士（理学）
アドミッション・ポリシー	生命科学部は、「基礎学力に加え、論理的思考能力、問題発見・解決能力およびコミュニケーション能力を有し、生命科学部で学ぶことに対し、積極的姿勢を持つ学生」を求めています。具体的には、「生命科学の世纪」といわれる21世纪において、生命科学の学術としての発展に寄与し、人類の幸福と、自然と調和した持続可能で豊かな社会の実現に貢献しようという強い意志を持つことに加えて、下記の3点の能力を持つ者を求めます。 <ol style="list-style-type: none"> 1 大学での学修の前提となる確かな基礎学力を有する者 2 真理を探求するために必要な論理的思考能力を有する者 3 課題を推進していくために必要な問題発見・解決能力やコミュニケーション能力を有する者



STUDENT'S VOICE

パーキンソン病とドーパミンの関係を明らかにし、神経系の病気の解明につなげたい。

生物が好きで遺伝子に興味があったことから、生命科学と情報科学が融合した生命情報学を学べる生命科学部を志望しました。大学院に進んだのは、教科書には載っていない最先端の技術や研究を学べて、未知の研究にも挑戦できると考えたからです。

現在取り組んでいるテーマは、「大脳基底核回路における情報の入力時間差とその影響」です。大脳基底核とは、脳の奥にある神経細胞の集まりで、運動調節、認知機能、感情などの機能を司っています。この大脳基底核に入力された情報が出力される場所へと到達する経路は3種類あり、同じタイミングで入ってきた情報でも経路によって到達時間が変化します。私は、プログラム言語を用いて神経回路を模倣したモデルを作成し、神経活動のシミュレーションを行って、3つの経路でどのように情報の送受信や共有が行われているのかを研究しています。この研究で、ドーパミンの分泌量によって、神経活動に差が出るということがわかつきました。ドーパミンは神経伝達物質の一種で、これが欠乏すると、パーキンソン病でよく見られるように、手足が動きにくくなる、筋肉がこわばるなどの症状が現れることが知られています。脳神経回路の観点からパーキンソン病とドーパミンの関係が明らかになれば、神経系の病気の解明の糸口になるのではないか、また、医学や薬学などの分野でもパーキンソン病の治療に役立つのではないかと期待しています。

大学院では専門的な知識に加えて、研究の方法を立案したり、自分の研究に関する情報を収集するなどの能力が身についたと感じています。将来は、IT系の職種に就き、研究で身についた専門性やスキル、さらに部活動やNPO法人での活動によって磨いてきたリーダーシップ・協調性を活かして、使ってよかったと評価してもらえるようなIT技術を開発したいと思っています。

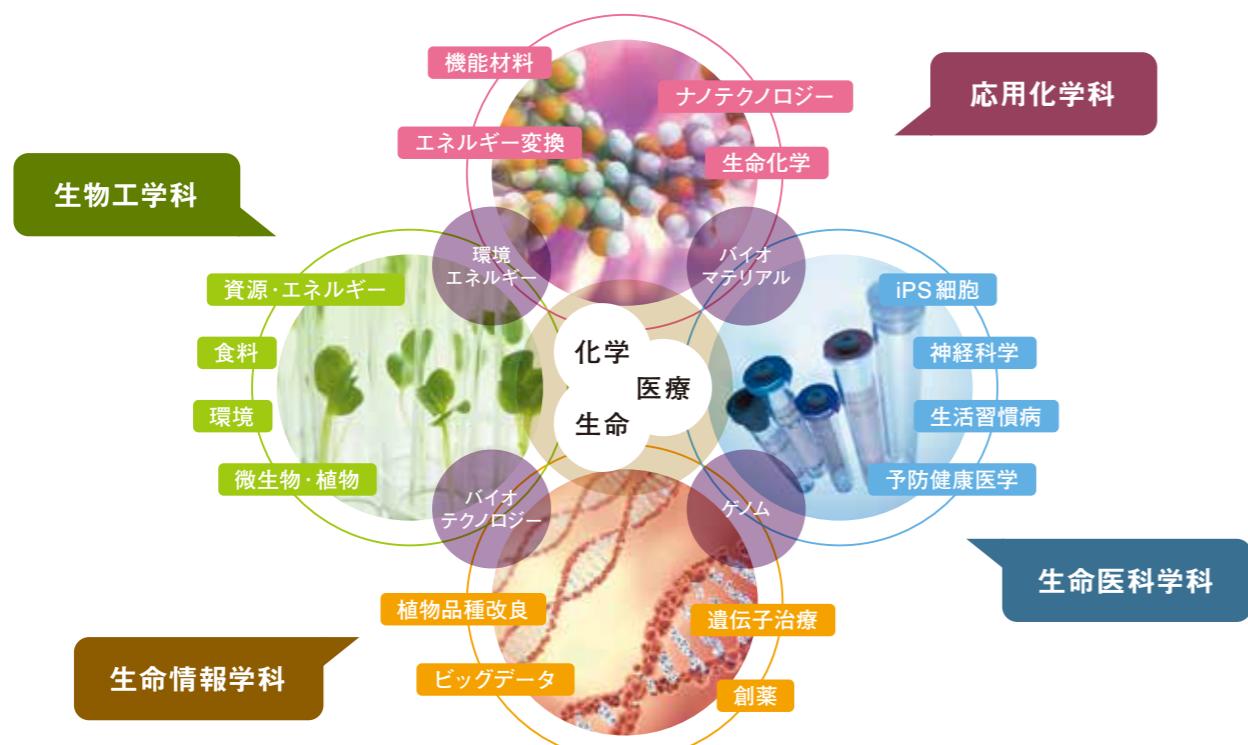


佐々木 優衣さん
生命科学研究科 生命情報学コース
博士課程前期課程2回生
青森県立青森高校出身

学びの特色

専門領域の垣根を越えた総合的な学び

生命科学の発展のためには専門性を深化させることはもちろん、異分野間の境界領域研究がますます重要になってきています。そこで、生命科学部のカリキュラムでは所属する学科の専門分野だけでなく、生命科学に関連した幅広い分野の科目も受講できるようになっています。また、卒業研究では自身の興味・関心に応じ、他学科の研究室を志望することも可能です。さらに、学部独自の英語プログラムにより、自身の研究を英語で発表するスキルを身に付けることもできます。



〈充実した実験・実習〉

最新の設備・施設を活用して質の高い実験・実習を展開

基礎から専門まで、実験・実習カリキュラムが充実。講義科目と連動させ、「理論」と「実践」の両方向から理解を深めます。ライフサイエンスの最先端研究を支える最新の研究設備や、培養実験室、低温室、放射光施設をはじめとする共同研究施設で、複数の教員と大学院生によるきめ細かな指導・サポートを受けながら、実験・実習を進めます。2021年には個人学習スペースを新設し、オンライン授業にも対応した学習スペースとして、多くの学生が利用しています。



学科紹介

応用化学科

現代化学の理論と技術を駆使して、
現代的課題に原子・分子レベルからアプローチ。

私たちは原子・分子から成り立つさまざまな物質に囲まれて生活しています。化学は物質の構造や性質、反応を原子・分子レベルで解明すること、さらに新しい物質や反応を構築していくことを目的としています。また、私たち人間を含めた生物体はタンパク質、核酸、脂質、糖質といった生体分子から成っており、化学の研究手法で生体分子とそれに関連する生体反応について探究することができます。化学は、私たちの生活を豊かにする材料科学の基盤技術として、また生命の神秘に迫る生命科学の基盤技術として大きな役割を果たしています。応用化学科では、そうした化学について学び、材料・エネルギー・生命・環境問題など社会の重点課題に挑みます。



生物工学科

バイオテクノロジーを通して、
食料・資源・エネルギー、環境の諸課題に挑む。

食料、資源・エネルギー、環境分野の諸課題を解決するために、化学的素養を備え、環境と生物、生物の多様性と相互作用、さらには人間社会との関連性を理解し、生物の持つ力を有効に活用できる人材が必要とされています。生物の有する特性を解き明かすとともに、その知見を農業・工学に展開する「バイオテクノロジー」を専門的に研究するのが生物工学科です。本学科では、化学、生物学、微生物学、植物生理学などの専門知識を養い、化学的基盤を理解します。さらに環境、食糧、バイオエネルギー、医療など、多様な分野にわたる学びと研究を通じて、安心・安全で持続可能な社会の実現に向けて活躍できる力を培います。



生命医学科

医科学・医療の革新により、
人類の福祉に貢献する。

ゲノムから得られる情報を用いて
生命現象を解き明かす。

人間は約37兆個の細胞からできており、その細胞一つ一つはさらに膨大な数の原子、分子からできています。生命体は、原子、分子から細胞、組織、生物個体まで、ミクロとマクロの世界を機能的に統合した巨大システムであり、これらが正しく機能するための設計図がゲノム情報です。生命情報学科では、ゲノムを調べる技術や、ゲノムから生命を見る技術を学べることが特徴です。

卒業研究では、生物発生システムの解明、体内時計などの分子機構解明やリズムを利用した脳情報処理機構の解明といった基礎研究に加え、新薬開発に向けた分子設計や食糧生産等のための植物の改良、データ駆動型疾患予防などの応用研究にも取り組みます。



4年間の学び

回生		1回生	2回生	3回生	4回生
		学びの流れ			
基礎科目	外国語科目	生命科学を学ぶ上で基礎となる数学、物理学、化学等を学修。また、生命科学技術が人や環境に及ぼす影響等を理解します。	各学科における専門科目の履修が本格的にスタート。実験・実習にも取り組み、講義で学んだ知識を一層深めます。	専門領域を体系的に学修。さらに専門領域と社会の関係について学んだり、キャリア形成のための科目を履修します。	自分の興味・関心に応じて研究室に所属し、卒業研究に取り組みます。教員のきめ細かな指導のもとで研究活動を進めます。
	教養科目	学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。→ 教養科目 [P.130]			
生命科学部	応用化学科	数学・基礎科学系	アカデミック表現法 数学1 数学2 数学3 数学4 数学演習1 数学演習2 物理学1 物理学2 生物科学1 生物科学2 地球科学 情報処理 特殊講義(専門基礎)		
		講義	生命科学概論 物理化学I 物理化学II 分析・無機化学I 分析化学II 無機化学II 有機化学I 有機化学II 生化学1 微生物学 化学系物理學1 化学系物理學2 特殊講義(専門)1 特殊講義(専門)2	物理化学III 分析化学III 無機化学III 有機化学III 有機分子解析法 生化学2 分子生物学 基礎環境学 バイオインフォマティクス 物理化学IV 生物物理化学 機器分析化学 固体化学 有機化学IV 高分子化学 分子細胞生物学1 酵素学 遺伝子工学 放射線生物学	英語JP1 英語JP2 統計熱力学 分子分光化学 固体物性化学 エネルギー変換化学 エネルギー創成化学 生物無機化学 無機材料化学 有機工業化学 有機材料化学 生物有機化学 生体高分子解析法 生体分子機能・構造化学 タンパク質工学 反応工学 生体分子工学 応用生物化学
	実験／演習	応用化学基礎演習1 応用化学基礎演習2 分析化学実験	有機化学実験 物理化学実験 物理学実験	生命科学セミナー 無機材料化学実験 有機・高分子材料化学実験 生物化学実験 分子生物学実験 地学実験	卒業研究1 卒業研究2
専門科目	生物工学科	数学・基礎科学系	アカデミック表現法 数学A 数学B 数学C 数学D 数学演習A 数学演習B 物理学1 物理学2 生物科学1 生物科学2 地球科学 情報処理 特殊講義(専門基礎)		
		講義	生命科学概論 物理化学I 物理化学II 分析化学II 分析・無機化学I 無機化学II 有機化学I 有機化学II 人体の構造と機能1 生化学1 生命物理化学 微生物学 特殊講義(専門)1 特殊講義(専門)2	物理化学III 分析化学III 無機化学III 有機化学III 人体の構造と機能2 生化学2 分子生物学 バイオインフォマティクス 機器分析化学 分子細胞生物学1 タンパク質・核酸の解析と機能 基礎環境学 酵素学 放射線生物学 植物生理学 遺伝子工学 生命有機化学 地球環境学 微生物生理学 食料生産科学	英語JP1 英語JP2 生体分子機能・構造化学 応用生物化学 生物環境化学 構造生物学 分子細胞生物学2 生物統計学 生体分子工学 反応工学 代謝工学 酵素工学 タンパク質工学 応用微生物学 環境微生物学 生物資源学 植物細胞工学
	実験／演習	生物工学基礎演習1 生物工学基礎演習2 分析化学実験	有機化学実験 基礎物理化学実験 分子生物学実験 微生物学実験 顕微鏡観察基礎実験 物理学実験	生化学実験 生命科学セミナー 地学実験	卒業研究1 卒業研究2
生命情報学科	数学・基礎科学系	アカデミック表現法 数学1 数学2 数学3 数学4 数学演習1 数学演習2 物理学1 物理学2 生物科学1 生物科学2 地球科学 情報処理 特殊講義(専門基礎)			
		講義	生命科学概論 基礎物理化学 分析・無機化学I 分析化学II 基礎有機化学 基礎生命物理学 生化学1 微生物学 確率・統計 人体の構造と機能1 基礎情報科学 プログラム言語1 プログラム言語2 特殊講義(専門)1 特殊講義(専門)2	生命物理化学I 生命物理化学II 分析化学III 生化学2 分子生物学 分子細胞生物学1 数理生物学 酵素学 基礎環境学 遺伝子工学 放射線生物学 人体の構造と機能2 バイオインフォマティクス バイオアルゴリズム プログラム言語3 プログラム言語4	英語JP1 英語JP2 分子細胞生物学2 量子化学 タンパク質工学 計算機化学 統計熱力学 構造生物学 生物統計学 ゲノム科学 システムバイオロジー 代謝工学 プロテオミクス 機能ゲノミクス 生体機能シミュレーション 進化情報学
	実験／演習	生命情報学基礎演習1 生命情報学基礎演習2 生物学基礎実験 統計シミュレーション実験	基礎生化学実験 ゲノムシミュレーション実験 数値シミュレーション実験 分子生物学実験 物理学実験	分子シミュレーション実験 細胞・システムシミュレーション実験 生命科学セミナー 地学実験 化学実験	卒業研究1 卒業研究2
生命医学科	数学・基礎科学系	アカデミック表現法 数学A 数学B 数学C 数学D 数学演習A 数学演習B 物理学1 物理学2 生物科学1 生物科学2 地球科学 情報処理 特殊講義(専門基礎)			
		講義	生命科学概論 基礎物理化学 分析・無機化学I 分析化学II 基礎有機化学 基礎生命物理学 人体の構造と機能1 生化学1 微生物学 特殊講義(専門)1 特殊講義(専門)2	生命物理化学I 生命物理化学II 分析化学III 人体の構造と機能2 生化学2 分子生物学 分子細胞生物学1 地球環境学 公衆衛生学 基礎環境学 放射線生物学 免疫学 酵素学 タンパク質・核酸の解析と機能 発生・ゲノム医学 バイオインフォマティクス 遺伝子工学	英語JP1 英語JP2 プロテオミクス 薬理学 機能ゲノミクス 構造生物学 生物統計学 統計熱力学 分子細胞生物学2 タンパク質工学 人体の機能と病態1 人体の機能と病態2 人体の機能と病態3 人体の機能と病態4 人体の機能と病態5 先端医科学 幹細胞・再生医学 医科生物工学 医療システム論 医療社会論 生命倫理
	実験／演習	生命医科学基礎演習1 生命医科学基礎演習2 基礎分析化学実験 応用分析化学実験	基礎生化学実験 微生物学実験 組織学実験 分子生物学実験 物理学実験	生理学実験 生命科学セミナー 薬理学実験 地学実験 化学実験	卒業研究1 卒業研究2
初修科目		初修物理、初修生物、初修化学			

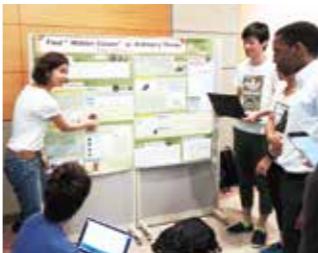
・上記は2025年度のカリキュラムです。2026年度は科目名称等が変更になる場合があります。

科目についての詳細は [オンラインシラバス](#)、立命館 [検索](#)

主な機能・プログラム

プロジェクト発信型英語プログラム

コミュニケーション能力を重視し、機能的な英語運用能力を育する「プロジェクト発信型英語プログラム」を学部独自に提供しています。2つの柱の1つ「Project」では、プロジェクトを通じリサーチ、プレゼンテーション、ディスカッション、カademick・ライティンなどの技能を修得し、成を世界に発信。もう1つ柱「Skill Workshop」では聞く、話す、読む、書く」の語4技能を鍛えます。



化学・生物駆け込み寺

生命科学を理解するには、さまざまな分野の知識が必要です。生命科学部では化学・生物駆け込み寺という制度を実施し、開講期間の授業日には毎日開催しています。高校で未履修の科目に対する不安や、日々の講義や実習で抱いた疑問の解決に向けて、大学院生を中心とする講師がサポートします。また、化学・生物分野以外にも情報分野（プログラミングなど）にも対応します。



教員紹介

025年度 教員・研究テーマ一覧]

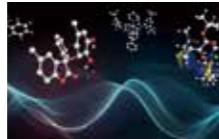
用科学科	
田 康宏	触媒と電池の反応をリアルタイムに観て機能の原理を理解し、次世代の材料開発へ
笠 有基	高安全・高寿命な二次電池の材料設計／高効率な水素エネルギー変換の 化学反応解析／次世代電池の開発
藤 稔	極限環境など様々な環境下における生体高分子 (タンパク質、核酸、および関連分子) の構造と機能の解明
田 繁樹	新しい金属錯体を設計し、窒素、二酸化炭素などの不活性小分子の変換に応用する
林 洋一	光機能材料の末路の機能開拓と新物質合成
月女 宜裕	分子触媒・酵素を用いた新反応を開発し、独自の生命制御分子をつくる
木 一好	酸化還元酵素と酸化還元リファクターの基礎と応用
治	ナノテクノロジーを駆使した「分子デザイン」と「分子集合状態制御」により 高分子で未来材料を創製
澤 裕	フェムト秒超短パルスレーザーにより分子運動を観測し、 光合成等の光化学反応がどのように起こるか研究している
崎 知則	新規な機能性有機材料を設計・合成しその応用の可能性を探る
田 大光	電子・光機能性をもつ色素分子をデザイン・合成して、 これまでにない超分子をつくる
山 友美	「生体分子」と「人工分子」の複合化による新たな化学反応制御場の構築
賀 まゆみ	英語教育およびEMI(英語を媒介とする授業)における教員の言語使用に関する研究
原 和輝	新奇分子の創出を指向した触媒設計ならびに新反応開発
承 超	固体電解質を目指した複合アニオン化合物の開発
井 国樹	分子集積に基づく新奇的な刺激応答性光機能材料の開発
田 拓希	π電子系を基盤とした機能性超分子構造の構築
本 浩輔	実験と情報科学を組み合わせた新規機能分子・材料創成
尾 尾樹	非天然脂質及び脂質類似化合物の創成と評価
命情報学科	
野 覧	細胞内の仕組みを詳細にモデル化した細胞モデルを使って組織や臓器の 機能を再現しそのメカニズムを解明する
藤 将弘	データ駆動型サイエンスを用いた稀少疾患および生命システムの解明
津川 尚史	リズムを操るニューラルネットワーク：脳に学び脳情報処理の解明を目指す
村 修平	大学英語教育へのICTの導入と利活用、 および機械翻訳やAIを用いた英語教育の実践と評価
橋 卓也	生命構造情報と機能情報を結びつけ、未來の社会に活用する
内 一姫	光合成生物の環境適応力と体内時計のしくみを探る
樋 祐一	情報処理機械としての生物を数理モデルを用いて理解する
尾 陽一朗	植物の環境ストレス耐性機構の解明と農業への応用
野 稔	植物の生体膜機能とその生理学的役割の解明
保田 幸彦	体の成り立ちと組織の恒常性維持を支える細胞動態を調節するしくみの解明
羅間 ジンヤ	数値モデルリングを使ってソフトマターと生物におけるフィードバック作用の 影響の解明
喜里 志門	分子動力学及び溶液理論の観点から生命現象の理解を目指す
竹 悠宇志	ストレス環境下における植物代謝応答の理解と応用を目指した分子レベル・ 細胞レベルでの解析
野 和馬	植物の受粉メカニズムおよび生殖器官における熱ストレス応答の解析
生物工学科	
石水 節	植物細胞壁多糖・フラボノイド配糖体の生合成・分解・役割解明／ それらの農作物・食品生産への応用
笠原 賢洋	植物の光に対する細胞・生物応答、およびcAMPシグナル系の分子機構に 関する研究
竹田 篤史	植物と病原体のせめぎ合いを分子レベルで明らかにし、病気に強い品種を 作出することを目指しています
武田 陽一	有機合成化学と分子生物学的手法を駆使して、糖鎖・タンパク質・脂質などの 生体内での機能解明を目指しています
松村 浩由	ヒト・植物・細菌のタンパク質の機能、相分離性、構造を調べ、改良した 酵素・薬を作ることで、地球環境の改善と創薬を目指します
三原 久明	微生物の多様な代謝経路と酵素の機能を解明し、様々な分野への応用を目指す
山中 司	プロジェクトの手法を用いた大学英語教育の有効性とその評価に関する研究
若山 守	酵素および発酵を利用した有用物質生産法の開発および発酵に関わる微生物の 特性解析
竹俣 直道	第三の生命ドメイン「アーキア」のゲノム構築原理を理解し応用する
青野 陸	微生物における物質変換機構の解明とその応用技術の開発
上原 了	RNA/DNAハイブリッドの形成と分解を伴うゲノム恒常性維持機構の解明
家門 純理	植物の道管細胞における細胞壁・細胞骨格制御機構の解明
青藤 大幹	根から感染する病原菌と植物の相互作用の解明を通して、病気が起きにくい栽培 体系の確立を目指す
高島 智也	真菌細胞壁多糖の分解酵素および分解産物の構造と機能と利用に関する研究
TRAN QUOC THINH	微生物に連する土壌環境／農業資材からのリンおよび窒素の回収技術の開発
豊竹 洋佑	発酵微生物の代謝に関する生理的・生化学的研究とその応用
山本 千愛	植物の有性生殖におけるシグナル伝達機構に関する研究
越智 杏奈	環境微生物によるセレン化合物の物質循環の分子機構の解明
生命医学科	
川村 晃久	体細胞初期化および幹細胞分化の分子機構とその再生医学への応用
白壁 泰子	細胞間コミュニケーションを司る膜タンパク質プロセシングの解明
立花 雅史	免疫応答を抑制する細胞をターゲットとした疾患治療法の開発
田中 秀和	脳神経回路の構築とリモーデリングと病態
早野 俊哉	タンパク質間ネットワーク解析によって病気の発症機構を明らかにする
向 英里	糖尿病の病態と発症の解明およびその治療と予防に向けた研究
山下 美朋	英語ライティング指導と、特定目的のための英語 (English for Specific Purposes) の特徴を分析する研究
森脇 健介	統計解析・数理モデルにより医療技術の費用対効果を評価し、 限られた医療費での健康寿命の最大化を支援する
中谷 仁	自閉症などの発達障害の生物学的病因の探求
伊藤 寿宏	代謝制御が免疫抑制細胞の分化に与える影響の評価
梶田 美穂子	組織常在性マクロファージによるがん免疫始動システムの解明
澤野 俊憲	脳梗塞時の多彩な組織反応にミクログリアが果たす役割の解明
原田 勝弘	胎生期における心臓エンハンサー/アトラスの創出と その小児循環器病学／再生医学への応用
萬年 太郎	タンパク質やRNAの相分離を介した核内構造体および神経変性疾患で生じる 凝集体の形成メカニズムの解明
毛利 晋輔	生活習慣病の予防・改善を目指した「食」に含まれる機能性成分の解明および その応用に向けた研究

研究紹介

応用化学科

分子触媒・酵素を用いた新反応を開発し、
独自の生命制御分子をつくる
五月女 宜裕 教授

私たちの体の中では、結合形成や切断といった多様な化学反応が営まれています。またこれにより様々な生命現象が制御されています。私たちは自然界の触媒である酵素により制御される生命反応を範として、独自の分子触媒を創出し、独自の反応を開発することに取り組んでいます。これにより、誰も手にしたことのない新奇分子を創り出し、これらを活用して生命反応を制御することにも挑戦しています。



フェムト秒パルスレーザーで探る
光化学エネルギー変換
長澤 裕 教授

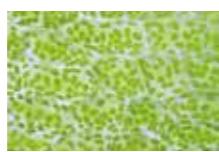
光化学反応が起こる様子を直接観察し、その原理を解明するため、フェムト秒レーザーを使った実験を行っています。フェムト秒とは 10^{-15} 秒のことであり、このような超短時間領域で化学反応は起こります。光化学反応には、二原子分子の光解離という単純なものから、光合成の初期過程のような非常に複雑なものまで、さまざまな種類があります。光化学反応の仕組みを解き明かし、光エネルギー変換などに応用していくのが研究目的です。



生物工学科

植物の環境応答のしくみを
分子レベルで理解する
笠原 賢洋 教授

生物は自然環境から受ける様々な刺激を利用して上手に生活しています。細胞には、そのために必要な光などの環境刺激を感じるセンサー、それらの刺激を細胞に伝えるシグナル物質・タンパク質から成るしくみが存在しています。私たちの研究室では、植物の光センサーとシグナル物質のはたらき、植物が光を刺激としてどのように利用して生活しているかを研究しています。



科学の力でウイルス病に強い
植物をつくる
竹田 篤史 教授

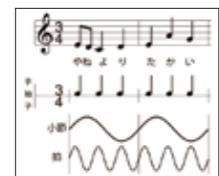
私の研究室では、主に植物ウイルスを研究対象として、植物の病気について研究しています。「ウイルスは植物細胞内でどのように増殖して感染を拡大させるのか?」、逆に「植物はどのような免疫システムを用いてウイルスと戦っているのか?」ウイルス側からと植物側からの両方の視点から基礎的な研究をしています。また、ゲノム編集技術を利用して、ウイルス病に強い品種を作る応用研究にも取り組んでいます。



生命情報学科

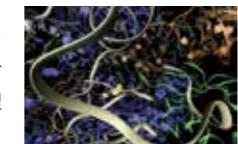
脳情報処理の原理を探る：
リズムから読み解く神経情報処理
木津川 尚史 教授

何かしていく、うまくいってると、リズムを感じます。調子よく歌いながら手拍子をしたら、気持ちよくリズムに乗れますね。このとき、私たちの頭の中では大小のリズムがうまく組み合わされているのです。脳の中には様々なリズムがあり、その組み合わせが脳の情報処理において重要な機能を果たしています。脳がどのように情報を処理しているのか、行動しているマウスから神経活動を記録して研究を進めています。



計算機としての生物を、
計算機を使って考える。
富樫 祐一 教授

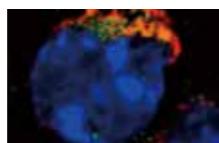
「生きることは、計算だ。」 私たちは、生命システムの本質は情報処理にあると考え、その仕組み—計算機としての生物—を、数理モデルを用いて理解することを目指しています。例えば、生物をつくる分子が分子を見分ける仕組みを、分子の動きや形の変化をシミュレーションで再現してとらえようとしています。さらに、化学反応と生態系が同じ方程式で表されるような場合もあるのが、数理的・理論的な研究の面白いところです。



生命医学科

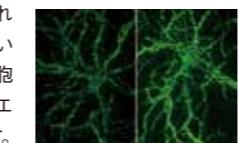
免疫を抑制する細胞を標的とした
新規疾患治療法の開発
立花 雅史 教授

私たちの身体には、常に健康でいるための「恒常性」というものが備わっています。骨髄由来免疫抑制細胞 (Myeloid-derived suppressor cells; MDSC) は、その恒常性が崩れたとき、つまり、病気の発症が引き金となって出現する細胞です。身体を元の健康な状態に戻すためには、MDSCの機能阻害や除去が有効な方法であると考え、MDSCを標的とした新規治療法の開発を目指し、その分化・増殖・機能の詳細なメカニズムの解明に取り組んでいます。



神経・グリア細胞が脳神経回路を
つなぎかえることで環境に適応するしくみ
田中 秀和 教授

話題の人工知能は、本物の脳の中の神経回路のしくみをまねています。そこではシナプスとよばれる回路のつなぎ目の重みづけを経験によって覚えてゆくことで学習します。我々はそのようなシナプス機能の変化(可塑性)には、形の変化がともなうこと、そしてそれを担う分子と細胞の役割について研究しています。例えば細胞接着分子や脳内の免疫細胞ミクログリアが、シナプスの形を変えるなど、エキサイティングな世界が繰り広げられています。



神経細胞に点状に結合しているシナプス形態の変化

卒業生からのメッセージ

モノづくりの下流から上流まで経験を積み
メーカーとしての役割を理解した研究者に。

工場の技術者として生産性向上に携わっています。水道管の質を落とすことなく低コストで早く、効率よく生産するためのレシピ開発に取り組んでいます。現在の仕事に役立っているのが、大学の研究室で得た経験です。大学院時代は、3次元ディスプレイの光源をはじめ幅広い分野への応用が期待される円偏光発光(CPL)材料開発に挑戦しました。複数の大学が参加するCPLに関する基盤技術創成を目指す大型プロジェクトの研究と自身の研究を両立させるべく打ち込みました。また後輩の指導やチームとしての人間関係の構築にも心を砕きました。研究活動を通して、問い合わせて考え抜くことで最も妥当な結論を出すための論理的思考力、洞察力が身についたと感じています。将来は基礎研究所で研究テーマのマネジメントに従事することを目標に、キャリアアップに努めています。



積水化学工業株式会社
環境ライフラインカンパニー 滋賀栗東工場 技術部 強化プラスチック管技術課
(生命科学研究科 博士課程後期課程 生命科学専攻 応用化学コース 2024年修了、
生命科学部 応用化学科 2019年卒業)

大学で研究した「心臓」のように
人の暮らしを健やかにする商品開発に取り組む。



木登 茉月 さん

パナソニック株式会社 エレクトリックワークス社 ソリューション開発本部
(生命科学研究科 博士課程前期課程 生命科学専攻 生命情報学コース 2017年修了、
生命科学部 生命情報学科 2015年卒業)

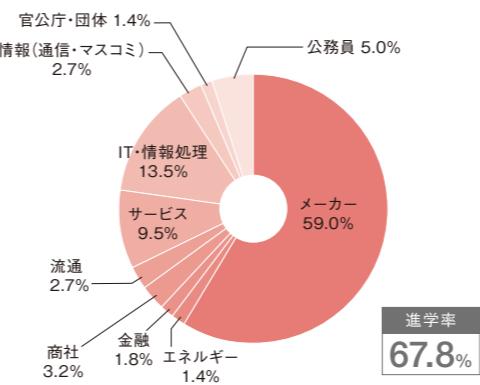
2011年、生命科学部生命情報学科に入学。2015年、生命科学研究科博士課程前期課程に進学。2017年、パナソニック株式会社 エコソリューションズ社に入社。ライティング事業部に配属される。2020年、エレクトリックワークス社ソリューション開発本部ライティング開発センターに異動。10年後の世の中に当たり前に存在する照明器具の研究開発に注力している。

進路・就職状況

ライフサイエンスの専門知識を実社会で活かす。

素材、環境、健康、IT、製薬など、人々の暮らしに関わる分野で多くの卒業生が活躍しています。

2023年度卒業生 業種別進路決定状況



2023年度卒業生・大学院修了生 進路・就職先一例	
応用化学科	生物工学科
京セラ(株)	SAPジャパン(株)
小林製薬(株)	大塚製薬(株)
積水化学工業(株)	ニチレイフーズ
ソニー(株)	京セラ(株)
TOPPAN(株)	シスマックス(株)
日東電工(株)	テルモ(株)
パナソニック	ニプロ(株)
エナジー(株)	日本電気(株)(NEC)
(株)NTTドコモ	久光製薬(株)
三井化学(株)	山崎製パン(株)
三菱電機(株)	ユニー・チャーム(株)
国家公務員総合職 (農林水産省)	富士フイルムビジネスイノベーションジャパン(株)
一般財団法人 日本食品分析センター	国家公務員総合職 (厚生労働省)
富士通(株)	楽天グループ(株)(エンジニア職)
日本公務員一般職 (農林水産省)	地方公務員(上級職)

○円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。○円グラフには研究科を含む。○進学率=〔進学者/(就職者+進学者)〕。ただし、進学者には大学院だけでなく他の進学者を含む。○端数処理の関係で100%にならない場合があります。



薬学部

■ 薬学科(6年制)

■ 創薬科学科(4年制)



STUDENT'S VOICE /

細胞の分子メカニズムを解析し、新しい治療戦略の開発につなげる。

私は子どもの頃から薬剤師である母が家族に薬のアドバイスをしている姿を見て、私も将来薬剤師になりたいと考えるようになりました。立命館大学の薬学部を選んだのは、大学生活の醍醐味である研究において、私立大学の中でもトップクラスの環境が整っていると感じたからです。

5回生では、「病院・薬局実務実習」を通じて、4回生までに得た薬学の知識を実際の医療現場で応用しました。薬局実習では、幅広い疾患の患者に対して調剤や服薬指導を行い、病院実習では、がん患者の治療過程を学びます。現場での実務を経験したこと、薬剤師には科学的根拠に基づいた解決策の提案に加えて、目の前の患者に寄り添い、個々に最適な治療を提供する能力が求められることを痛感しました。現在は、配属研究室で「はたらく細胞」でお馴染みのキラーT細胞の活性化メカニズムを研究しています。体内でがん細胞やウイルス感染細胞を殺傷するキラーT細胞は、元々殺傷能力のないCD8陽性T細胞から分化(変身)します。この分化(変身)はアニメや映画ではありませんが、非常に重要なプロセスであり、その分子メカニズムはまだよく分かっていません。私はそれを明らかにして、これらのがんやウイルス感染に対する新しい治療戦略の開発につなげたいと考えています。

薬剤師の就職は薬局、病院、官公庁、製薬企業など多岐にわたりますが、どの分野でも社会に貢献できる薬剤師となれるよう、実習や研究をはじめとする全ての活動に真摯に取り組んでいきます。



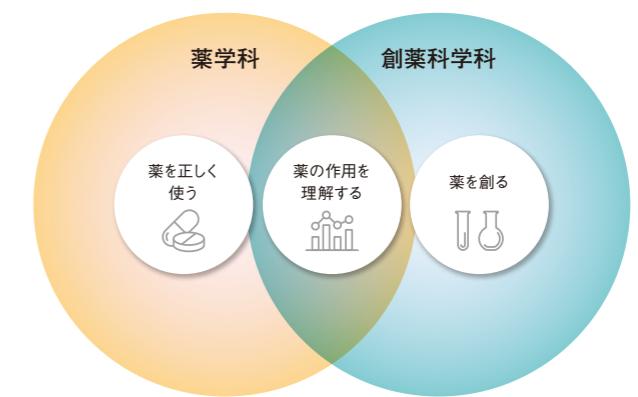
藤原 未悠さん
薬学部 薬学科 6回生
大阪府立四條畷高校出身

取得学位	薬学科…学士(薬学)／創薬科学科…学士(薬科学)
アドミッション・ポリシー	<p>薬学部は、医療の高度化に伴う薬学の深い専門的な力量をつけるため、以下のような学生を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 理科・数学において基礎的な知識を有し、科学的な思考力を持つ者 課題探究心、社会性および一定のコミュニケーション能力を有する者 薬学科では先端的な医療に関心を持ち、高度専門職業人としての薬剤師となることを強く志望し、そのために努力を惜しまない者 創薬科学科では医薬品創製および関連分野において基礎研究および臨床開発に携わり、グローバルに活躍することを強く志望し、そのため努力を惜しまない者

高度化・多様化するフィールドに対応し、 目指す進路に合わせて学べる2学科体制を採用

薬の種となる有効な物質の発見から始まり、その物質を薬として育て、さらに必要とする患者さんに供給することで、人類の健康へ貢献する学問が薬学です。薬学は、物質を扱うための化学や、薬が生体に与える影響を考えるための生物学などの基礎学問をベースにした総合的な学問分野です。立命館大学薬学部では、「薬を創る」、「薬の作用を理解する」、「薬を正しく使う」という3つのカテゴリーを将来の進路に合わせて学び、薬学のエキスパートとして社会で活躍できる人材を養成するために、薬学科(6年制)と創薬科学科(4年制)を開設しています。

「薬の作用を理解する」というカテゴリーは、薬学科・創薬科学科ともに共通して学び、薬がなぜ効果を示すか、生物的・化学的視点から理解を深めるとともに、個々の薬の特徴をしっかりと修得できる多くの科目が準備されています。薬学科では医療人として「薬を正しく使う」分野・領域を学び、薬の知識だけでなく、医療人としての高い知識と豊かな人間性をそなえ、医療現場で必要となる研究マインドを持った薬剤師を育成します。一方、創薬科学科では、人類に貢献できる発見を生み出すために「薬を創る」分野・領域を深く学びます。いずれの学科も高度な専門知識と研究力を有し、企業や研究機関で国際的に活躍できる人材を育成します。



学部の学び

薬学部では、6年制薬学科と4年制創薬科学科の両分野が融合的に展開しながら、これから薬学の発展に寄与することを目指し、2学科体制で薬学教育を行っています。低回生時は、両学科ともに、数学や物理学、化学などを学び、科学的な思考力を育成し、土台を築きながら、化学系薬学・生物系薬学・医療系薬学といった専門科目へと進んでいきます。4回生次以降は、薬学科は臨床薬学、創薬科学科は大学院進学を目指して「薬を創る」分野を重点的に学び、それぞれの進路へ向けた専門的知識の修得と実践を深めます。

1・2回生から薬剤師や薬品に関わる仕事を体験して、将来のビジョン形成につなげる

入学後は事前学修を経て、全員が企業・薬局などの施設を訪問します。薬剤師が活躍するさまざまな職場を見学・体験することで、薬学部生としての意識と大学6年間の学修意欲を高めます。1回生では、薬剤師に必須のコミュニケーション能力を培うための第一歩として「コミュニケーション演習」を履修します。また、2回生では医療人である薬剤師に求められる倫理観などを身に付けることを目指して、「薬学応用演習」を履修します。



約5ヶ月間の病院・薬局の実務実習で薬剤師の仕事や責任を学ぶ

4回生秋学期からは学内の模擬薬局等で「実務前実習」を行います。臨床経験の豊富な教員の指導のもと、薬剤師としての行動や倫理観について実践を通して学びます。また4回生秋学期に行う「薬学共用試験」に合格した後、5回生次に病院・薬局でそれぞれ11週にわたり「病院・薬局実務実習」を体験します。医療現場の第一線で求められるスキルや役割、薬剤師として相応しい技能や態度についても学びます。

外国語の選択 [必修] 英語

- 下記は2025年度のカリキュラムです。2026年度は科目名等が変更になる場合があります。
- 学部の専門科目とは質的に異なる、幅広い分野の知識の修得を目指す科目を多数履修することができます。⇒ 教養科目 P130

6年間の学びと研究の集大成

6回生次には、3回生秋学期より3年間実施する「卒業研究」の成果を卒業論文にまとめ発表します。「卒業研究」では臨床に関連するテーマに取り組み、問題解決能力と研究マインドを身に付けます。また、6年間の学びについて総合的に理解を深めるため、「薬学総合演習」を開講しています。多数の薬学部教員による講義・演習で、入学時からの学修内容を復習することができます。医療現場で必要となる知識・技能を確実に修得して卒業します。



薬学科（6年制）の学び

必修科目	1回生配当		2回生配当		3回生配当		4回生配当		5回生配当		6回生配当	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
アドバントス上級専門科目以外の選択科目6単位を含む	化学系薬学 ●有機化学 A ●物理化学 A ●分析化学 A	●有機化学 B ●物理化学 B ●機器分析化学	●有機化学 C 有機分子解析法 物理化学 C 分析化学 B ●生薬学	有機化学 D ●実践有機化学 ●放射化学 ●天然物化学	●医薬品製造学 生体分子解析法	構造生物学 ●和漢薬論						
専門科目6単位を含む	生物系薬学 ●解剖・生理学 A ●生化学 A	●解剖・生理学 B ●生化学 B ●分子細胞生物学 ●薬理学 A	●微生物学 ●免疫学 ●衛生化学 ●薬理学 B ●生物統計学演習		●環境衛生学 ●薬理学 C プロテオミクス	●毒性学 ●応用薬理学演習 再生医療学 分子神経科学	●公衆衛生学 バイオインフォマティクス					
専門科目6単位を含む	医療系薬学 ●病態・薬物治療学 A ●製剤学・物理薬剤学 A			●病態・薬物治療学 B ●製剤学・物理薬剤学 B	●病態・薬物治療学 C ●薬物動態学 ●生物薬剤学 ●製剤学・物理薬剤学 B ●日本薬局方概論 ●医療倫理	●病態・薬物治療学 D ●臨床薬剤学 A ●臨床薬剤学 B ●薬物療法学 ●調剤学 ●薬事法規・薬事制度						
専門科目6単位を含む	実習 ●分析化学実習 A ●分析化学実習 B	●有機化学実習 A ●有機化学実習 B	●物理化学実習 A		●生化学・分子生物学実習 ●生薬学・天然物化学実習 ●衛生化学実習	●薬理学実習 ●微生物学実習 ●薬剤学実習	●医療薬学実習 A ●医療薬学実習 B	●実務前実習	●病院実務実習 ●薬局実務実習			
専門科目6単位を含む	卒業研究					●卒業研究 A	●卒業研究 B	●卒業研究 C	●卒業研究 D			

（注意事項）年度により、開講期間（春学期・秋学期）がカリキュラム表とは異なる場合があります。授業時間割表で確認してください。※クオーター開講の場合があります。詳細は授業時間割表で確認してください。

必修科目 ○選択必修科目	1回生配当		2回生配当		3回生配当		4回生配当		春学期		秋学期	
	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
専門科目6単位以上を含む	化学系薬学 ●有機化学 A ●物理化学 A ●分析化学 A	●有機化学 B ●物理化学 B ●機器分析化学	●有機化学 C 有機分子解析法 物理化学 C 分析化学 B ●生薬学	有機化学 D ●実践有機化学 放射化学 ●天然物化学	医薬品製造学 生体分子解析法	○合成化学 構造生物学 和漢薬論	○香粧品学 ○食品化学					
専門科目6単位以上を含む	生物系薬学 ●解剖・生理学 A ●生化学 A	●解剖・生理学 B ●生化学 B 分子細胞生物学 ●薬理学 A	●微生物学 免疫学 ●衛生化学 ●薬理学 B システムバイオロジー ケミカルバイオロジー ●生物統計学演習		環境衛生学 薬理学 C プロテオミクス バイオインフォマティクス	毒性学 ○再生医療学 ○分子神経科学	公衆衛生学 ○次世代創薬 ○免疫医薬品学					
専門科目6単位以上を含む	医療系薬学 ●病態・薬物治療学 A ●製剤学・物理薬剤学 A			●病態・薬物治療学 B ●製剤学・物理薬剤学 A	病態・薬物治療学 C ●薬物動態学 薬物送達学 ●日本薬局方概論 医療倫理	病態・薬物治療学 D ●臨床薬剤学 A ●臨床薬剤学 B ●薬物療法学 ●調剤学 ●薬事法規・薬事制度	病態・薬物治療学 D ●臨床薬剤学 A ●臨床薬剤学 B ●薬物療法学 ●調剤学 ●薬事法規・薬事制度					
専門科目6単位以上を含む	実習 ●分析化学実習 A ●分析化学実習 B	●有機化学実習 A ●有機化学実習 B	●物理化学実習 A ●物理化学実習 B		●生化学・分子生物学実習 ●生薬学・天然物化学実習 ●衛生化学実習	●薬理学実習 ●微生物学実習 ●薬剤学実習	●医療薬学実習 A ●医療薬学実習 B	●卒業研究 A	●卒業研究 B			
専門科目6単位以上を含む	卒業研究											

創薬科学（4年制）の学び

研究者としての将来ビジョンを形成する

「創薬科学基礎演習」では、製薬企業や研究機関における仕事や研究について小集団で調査・議論します。その後、企業や研究機関を訪問して創薬のプロセスや研究機関の役割について学び、結果をまとめてプレゼンテーションを行います。



創薬に直結する専門科目の履修

専門科目に医療系薬学科目が加わり、各専門科目をバランスよく学修します。科目選択の参考として化学系創薬研究者、生物系創薬研究者、臨床開発・医薬情報担当者の3つの履修モデルを設定しています。モデルに沿って履修することで将来の進路を見据えた確かな知識・技能を修得します。また、3回生秋学期からは各自研究室で、関心あるテーマに沿って卒業研究に取り組みます。



より高度な研究を目指して

卒業後は多くの学生が大学院に進学し、「薬を創る」分野・領域をより深く学び、高度な専門知識と研究能力を身に付け、企業や研究機関におけるグローバル人材として活躍することが期待されます。大学院修士課程では、専門領域の学びはもちろんのこと、国内外の研究機関・研究者との交流など、研究者として成長するための環境を用意しています。



薬学部

学びの特色

薬学部で学ぶ英語での情報発信力

薬学部では、国際化が進むライフサイエンス分野に対応するため、英語教育を必須としています。薬学部の英語教育はネイティブ教員により徹底的な訓練でスキルを総合的に高める「スキルワークショップ」と、興味に応じたテーマや医療・医薬に関する専門分野で発表を行うことで英語運用能力・情報収集能力・プレゼンテーション能力を身に付ける「プロジェクト」英語の2本柱で構成されています。また、薬学部はカナダのトロント小児病院(SickKids)と留学協定を結んでおり、薬学科5回生向けに留学プログラムを提供しています。SickKidsはトロント大学の関連病院で、最先端の小児医療を提供し、世界各国の医療従事者や研究者が留学・研修に訪れます。このプログラムでは、世界最先端の医療現場でカナダの医療制度や薬剤師業務を学び、病棟での臨床体験や症例検討会に参加することで、国際的な視野を身に付けることを目的としています。



多職種連携教育プログラム

患者さんにとってより良い医療を提供するためには、医師・薬剤師・看護師など医療に関わる様々な職種がチームとして連携する必要があります。そのためには、医師・薬剤師・看護師になってから他の職種の職能を知るのではなく、学生の時からお互いの職種を知り、共に学ぶことで、医療人としての価値観を共有することが重要です。

立命館大学薬学部では、「立命館大学薬学部と滋賀医科大学との多職種連携教育プログラム」を実施しています。2024年度は立命館大学びわこくさつキャンパスにて、「高齢者と家族の暮らしについて考える」をテーマとし、立命館大学薬学部2回生、滋賀医科大学医学部2回生・看護学部2回生の合計240名で実施しました。医学生・薬学生・看護学生の立場からテーマに関する意見交換を行い、数名のチームごとにプロダクトを作成しグループごとに発表します。このプログラムを通じて他者の価値観を尊重することや、多職種が連携しチームとして医療を提供することの重要さや難しさを学びます。それぞれの学部で座学・演習を実践するには、このような他学部との共同学習の機会は重要です。



様々な立場からの多様な意見を共有することができ、楽しみながらも、新しい学びが得られるプログラムを提供しています。

※多職種連携とは、医師・薬剤師・看護師など、医療に携わる様々な職種が連携することを指します。

[2025年度 教員・研究テーマ一覧]

化学系薬学	
井之上 浩一	臨床化学・食品衛生学・レギュラトリーサイエンスを目指した新たな分析化学
北原 亮	極限環境における生命現象
菅野 清彦	物理化学理論に基づく医薬品の製剤設計および機能評価
田中 謙	天然薬物資源の開発と応用
土肥 寿文	持続可能な合成手法の開発と有用物質の創製研究
豊田 英尚	糖鎖機能の解明と再生医療への応用
林 宏明	薬用植物の多様性の解析と応用
古德 直之	有機合成化学を基盤としたケミカルバイオロジー研究
森本 功治	新しい分子変換反応・生体関連分子の効率的合成法への応用
泉川 友美	グリコサミングリカンを含む糖鎖の機能解明とそれらの医薬品開発および再生医療への応用
上田中 徹	新規有機合成法の開発およびその応用による創薬科学研究
菊嶺 孝太郎	医薬品創出を向したケミカルバイオロジー研究
北沢 創一郎	タンパク質の立体構造把握と機能の相関研究
高山 卓大	Omicsアプローチによる病態の解明・早期診断及び創薬への展開
西殿 悠人	植物化学を基盤とする生薬学研究
生物系薬学	
芦田 昇	線維化抑制・組織再生のための遺伝子治療の開発
天ヶ瀬 紀久子	種々の消化器疾患の病態解明ならびに予防・治療法の探索
梅原 崇史	エピゲノムを再構成して操作する
北村 佳久	神経変性疾患の病態解明と治療戦略の研究
小池 千恵子	網膜ネットワークダイナミクスの統合的研究：再生医療への基盤を築く分子、細胞、組織、機能からの階層横断的解析
鈴木 健二	細胞内情報伝達系に焦点を当てる薬物標的の探索
高田 達之	内分泌搅乱とレチノイン酸シグナル。幹細胞生物学を用いた琵琶湖固有種の保存
中山 勝文	病原微粒子に対する免疫応答機構を解析する
林 嘉宏	がんの病態解明とアンメットメディカルニーズを充たす新規治療法開発
市村 敦彦	統合的解析による細胞内シグナル制御機構と生理機能の解明
河野 貴子	細胞機能を制御するシステムの動作原理の解明
藤田 隆司	代謝性疾患における免疫の役割
井上 沙奈	治療抵抗性トランジット乳癌細胞における癌幹細胞の役割
上野 明希子	網膜ON型双極細胞におけるカチオンチャネル転写制御機構の解明
高橋 慧	造血器腫瘍に対する新規治療提案
田中 亨	組織線維化に対する治療法の開発とその機序の解明
文 小鵬	シヌクレノバチの病態形成に対する治療薬の探索
医療系薬学	
角本 幹夫	テラーメイド薬物療法を目指した医薬品の適正使用に関する研究
桂 敏也	薬物代謝酵素・トランスポーターの機能・発現変動に関する研究
藤田 卓也	薬物動態・薬効に関するトランスポーターの機能評価
間宮 弘晃	データに基づく医薬品の臨床的・経済的評価と政策研究
上島 智	個別化薬物療法を指向した薬物動態と薬効に関する速度論的解析
野田 哲史	臨床的疑問の解決を目指した医療薬学研究
根末 亮介	ゲノム編集技術を用いた創薬応用可能な薬物代謝能を有する腸・肝モデルの作製
若井 恵里	ドラッグリポジショニングによる新規治療薬の開発
情報科学・医療情報系薬学	情報科学・医療情報系薬学
荒木 通啓	デジタルヘルス・バイオ
薬学系教育	
近藤 雪絵	学習者主導の授業運営方法と薬学生のための英語学習教材の開発およびコーパスを利用したディスクourse分析
坂口 裕子	医療現場と連携し、適正かつ最適な薬物療法を目指した医療薬学研究
三浦 信広	薬学系における物理の基礎教育に関する研究と教材の開発
吉田 徳之	日常・臨床につながる化学・物理法則に従う機体の理解
後藤 秀貴	日常言語に潜む比喩表現の認知言語学的分析および英語教育におけるAI活用の可能性と課題の探究



卒業生からのメッセージ

医療の最前線で入院患者さんを支える毎日。
将来は地域医療連携も担える薬剤師に。

喘息に苦しんだ幼少期、発作時の症状を抑えるには薬が不可欠でした。この経験が薬剤師を志すきっかけになりました。5回生の病院実習を通して、患者さんと直接関わる仕事が向いていると感じ、滋賀医科大学医学部附属病院に就職しました。現在は調剤業務や病棟業務に携わっています。病棟業務では、心臓病を抱える患者さんを対象に、薬の説明や心臓病教室などを実施し、正しい服薬を促しています。患者さんからの「薬に対する考え方が変わった」といった反応にやりがいを感じています。在学中は、新薬の体内動態の解明に取り組みました。研究を通じて養った柔軟な思考力や困難を乗り越える粘り強さは、臨床現場でも力になっています。今後は、幅広い知識、経験、実践力があると認められる病院薬学認定薬剤師の資格取得に向け、努力を重ねるとともに、地域医療と連携し、退院後の患者さんも支援できる薬剤師を目指しています。



中屋 健太 さん
滋賀医科大学 医学部附属病院 薬剤部
(薬学部 薬学科 2023年卒業)

これまでにない医薬品を生み出し
病に苦しんでいる人を救いたい。

いまだこの世に存在しないものを作り、世界中の人に救いたいと思い、製薬業界を志しました。現在は医療用医薬品を開発するためのターゲット探索と薬効薬理試験を行なうほか、大学との共同研究で医薬品開発にも携わっています。大学1回生の時、授業で製薬会社の現役社員の方からお話を聞き、この業界で働くイメージを持つことができました。研究室に配属されてからは、研究に特に力を入れ、努力して得たデータを学会で発表したことは、とても思い出に残っています。これらの研究活動を通じて、自ら考え、議論し、それにどまらず行動に移す力が向上しました。この力を活かして、仕事でも自らプロジェクトの試験系を立ち上げ、先輩方と議論を重ねてブラッシュアップし、重要な成果を出すことができました。将来は、自ら立案したコンセプトの医薬品を世の中に出し、病に苦しんでいる人を救うことが目標です。



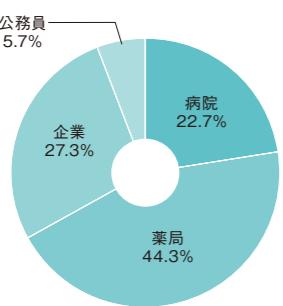
佐々木 礼一郎 さん
佐藤製薬株式会社 医薬研究部 薬理研究1課
(薬学研究科 博士課程前期課程 薬科学専攻 2023年修了、薬学部 創薬科学科 2021年卒業)

2017年、薬学部創薬科学科入学。2021年、薬学研究科に進学。研究に加え、サークル活動やアルバイトにも力を注ぎ、充実した日々を送った。2023年4月、佐藤製薬株式会社に入社。現在は品川研究開発センター医薬研究部薬理研究1課に所属し、医療用医薬品の研究を行っている。

薬学科 進路・就職状況

高度化する医療現場において自ら課題の解決に取り組める
「研究マインド」を持った薬剤師を育成。

[2023年度卒業生 業種別進路決定状況]



[2023年度卒業生 進路・就職先一例]

病院	企業	薬局
地方独立行政法人大阪市民病院機構	味の素株式会社	株式会社アインファーマシーズ
社会福祉法人恩賜財団大阪府済生会千里病院	エーザイ株式会社	ウエルシア薬局株式会社
京都府立医科大学附属病院	大塚製薬株式会社	株式会社スギ薬局 (スギ薬局グループ)
神戸大学医学部附属病院	沢井製薬株式会社	株式会社マツキヨ
国立研究開発法人国立がん研究センター	株式会社三和化学位研究所	ココカラ&カンパニー
独立行政法人国立病院機構	シミック株式会社	マツキヨ
独立行政法人国立病院機構関東信越グループ	第一三共株式会社	公務員
国立大学法人千葉大学医学部附属病院	武田薬品工業株式会社	国家公務員総合職(特許庁)
日本赤十字社 長浜赤十字病院	テルモ株式会社	京都市役所
藤田医科大学 岡崎医療センター	日本新薬株式会社	滋賀県病院事業庁
	ファイザー株式会社	ロート製薬株式会社

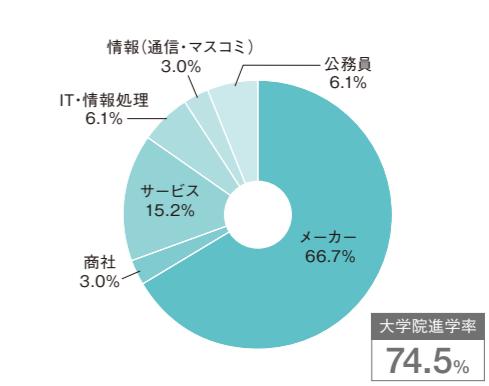
(50音順)

○円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。○端数処理の関係で100%にならない場合があります。

創薬科学科 進路・就職状況

創薬の高度な専門知識と研究力を有し、
医薬品などの基礎研究および臨床開発において活躍できる人材を育成。

[2023年度卒業生 業種別進路決定状況]



[2023年度卒業生 大学院修了生 進路・就職先一例]

IQVIA サービシーズジャパン合同会社	日産化学株式会社
大塚製薬株式会社	日本新薬株式会社
キッセイ薬品工業株式会社	ニプロファーマ株式会社
佐藤製薬株式会社	Meiji Seika ファルマ株式会社
株式会社ソムラ	国家公務員総合職(特許庁)

○円グラフの数値は小数点以下第二位を四捨五入により算出。○円グラフには研究科を含む。○大学院進学率=〔大学院進学者 / (就職者 + 大学院進学者)〕。○端数処理の関係で100%にならない場合があります。